

さわやか秋空に歓声！

第四十回「港区民まつり」に一万一千人

台風十九号襲来を翌日に控えた爽やかな秋空の下、区民の笑顔と歓声が溢れました。十月十二日(日)に八幡屋公園一帯で開催された「第四十回港区民まつり」には約一万一千人が参加。朝十時から午後二時まで、「防災」をテーマにした競技や舞台発表、展示や模擬店など多彩な内容を楽しみました。大阪市「コミュニティ協会港区支部協議会」など区内の諸団体から成る「第四十回港区民まつり実行委員会」と港区役所が主催。

「防災」テーマに多彩な催し、競技は市岡三連覇、自衛隊参加に危惧も

このうち主会場である同公園・多目的広場で行なわれたのはメインイベントの「防災競技」。

ひとつとして新装なった「校下対抗港区民運動会」の最新バージョンです。

一昨年まで隔年で開催され、昨年は「みなりん

◆「区民の情熱の結晶」と実行委員長

開会式は夏を思わせる日差しの下、築港中学校校吹奏楽部のファンファーレを合図に始まりました。主催者を代表して挨拶に立った武智虎

よし
義・実行委員長(大阪市)「ミニミニ協会港区支部協議会会長は「区民まつりは港区の「ミニミニ」活動の集大成として毎年開かれているが、今回は、新しい時代にふさわしい新しいアイディアを採り入れ、老若男女みんなが楽しめるよう、六月八日から九月二十日まで大小八回の会合を開いて準備してきた。そうした区民の心、おもてなしの心、情熱の結晶として今日を迎えた。天の恵みで台風もまだ来ない。秋の一日を心ゆくまで楽しんでほしい」と呼びかけました。

◆「区民は「地域主体」を強調

次いで田端尚伸たはたのぶのぶ・港区長は「人と人の結びつきの強さを生かして港区では地域主体のまちづくりが進んでいる。今日は地域対抗の防災競技が行なわれるが、それをぜひ地域の安全・安心



→開会式で「区民の情熱を強調する武智実行委員長(上)と「地域主体」を強調する田端区長(下)

につなげてほしい。台風がまだ来ないのは天の恵みだが、これから天の脅威にも変わり得る。区役所でも万全を期すが、地域でも充分な備えを」と呼びかけました。

また来賓を代表して大阪市の京極副市長は「過去の度重なる被災経験から、港区では防災への関心が強い。今回のテーマ『防災』はまさに時宜ときぎに適かなっている。市もセーフティネットの構築に急ピッチで取り組んでいる。これを機に地域の絆きずながより強まることを期待する」。奥野正美市会議員は「港区は天保年間からお祭りの盛んな地域。この区民まつりを通して地域のつながりがさらに強まり深まるよう願っている」とそれぞれ挨拶しました。

◆「防災競技」が次々

このあと築港中吹奏楽部による演奏(踊るポンポコリン)「妖怪ウォッチャー」や市立田中保育所園児による太鼓演奏、港区運動サポーターのリードによる参加者全員でのラジオ体操、各校下女性会による歌や踊りなどを挟みながら地域対抗の防災競技である「バケツリレー」「もっふdeタンカ☆トライアル」「土のつ積み競

→「踊るポンポコリン」を演奏する築港中吹奏楽部(上)と、和太鼓を演奏する田中保育所園児(下)



争」や、個人参加の防災競技である「防災借り物競争」「防災〇×クイズ」「けむり避難キャタピラー競争」などが次々と進行しました。

◆結果問われた「バケツリレー」

このうち地域対抗の「バケツリレー」は、大バケツに入ったたくさんのカラーボールを幾つもの小バケツに分けて入れ、それを人の手から手へリレーして別の太バケツに移し切る早さを競うもの。

その第一レースで精力的に走りまわり、港晴チームの第二位に貢献した矢野瑞姫みずきさんら築港中一年生の四人グループは「ぶつつけ本番なので慌てしまっ、おまけに暑かったけど、

とても楽しかったです」「(吹奏楽)演奏もつま
くできて良かったです」「(吹奏楽部顧問の庄司
晴紀)先生が何でも引き受けてくれるので、とて
も忙しいです(笑)」などと話していました。

同じくバケツリレーの第二レースで一位にな
った築港チームの清田和子さん(七四)は「ぶっ
つけ本番で慌ただしかったけれど、とても楽し
かったです。一位になれたのは、日頃の地域の
結束の賜物(たまもの)でしょうか。今回のようにテーマを
決めるのに(区民まつり)開催は良かったと思い
ます。地域では民生委員として十年ほど活動し
てきましたが、来年で定年なので、あと二年、
いっかり務めたいと思っています」。



→地域の結束が問われた「バケツリレー」⑤と、
防災知識が問われた「防災借り物競争」⑥

同じくバケツリレーの第三レースで一位とな
った弁天チームの羽東利子さん(五六)「弁天
五、六丁自治会副会長」は「ぶっつけ本番だっ
たので、その場で役割分担を決めて、必死でや
りましたが、(第一位は)まぐれです(笑)。(区
民まつりは)一年一度、全ての地域の人が一堂に
会して和気あいあいと楽しめる場として、とて
も良い催しだと思います」と話していました。

◆「借り物競争」や「OXクイズ」も

また、「非常持ち出し袋に何を入れたらよいで
しょう」などの問題を受けて、パネルに貼った
たくさんのお札から選び出す「防災借り物競争」
や、「学校は災害発生時の避難場所になっていま
す」「ハザードマップは地域の危険箇所を示し
た地図です」「マグニチュードは地震のエネルギー
の大きさを示す数値です」などの説明が正し
いかどうかを判断する「防災OXクイズ」では、
日頃の防災知識の正確さが問われましたが、ど
ちらも出場者の好成績が目立ちました。

◆踊りで魅せた女性会

舞台では正午から、各校下女性会による歌や
踊りが次々と登場。このつち元氣一杯に「いわ

→大勢の参加があった「防災OXクイズ」⑤と、
「紅花摘み唄」を踊る三先女性会⑥



し船」を披露したのは市岡女性会の平均年齢七
十五歳の女性たち。メンバーの本木幸恵さんら
は「この踊りは男の踊りなので、まず力強さが
必要ですが、女性が踊るといってことで美しさも
感じて頂かなければなりません。またそれ以前
に全員の動きをバタリと合わせるのが求めら
れます。そのため三カ月前から週一回、各三時
間の稽古を重ねてきました。区民まつりには毎
年出演していますが、こつとしたイベント出演を
意識することで練習にも張り合いが出ます」と
話していました。

◆市岡チームが三連覇

閉会式では武智実行委員長が「朝早くから一

生懸命準備・協力し、天候にも恵まれ、非常に楽しく終わることが出来たことに心から感謝したい。港区の老若男女が心から港区を愛し、ふれあいを大切にし、運命共同体として結束していこうとする情熱を改めて感じた」と閉会の言葉を述べました。

また校下対抗の三つの防災競技の合計得点に基づき成績発表と表彰が行なわれ、優勝の市岡チーム、準優勝の港晴チーム、三位の八幡屋チームに武智実行委員長と田端区長から賞状と記念品が贈られました。

このうち市岡チームは「バケツリレー」で二位、「もつぷだえタンカ☆トライアル」で二位と



→防災競技で三連覇を果たし表彰される市岡チ

ーム(上)、惜しくも準優勝の港晴チーム(下)

一位、「土のつ積み競争」で二位と安定した戦いぶりを見せ、二〇二一年、二〇二二年に続く三連覇を達成。リーダーの西林潤さん(五二)市岡地域活動協議会青少年部会長は「どの競技もぶっつけ本番でしたが、それだけによい地域の和とパワーが問われたように思います。加えて今回は、昨年まで地域のまとめ役として大きな役割を果たしてこられた平井新三さんが七十三歳で亡くなられ、その弔い(いたい)を意識したことも、皆の力が一つに固まる大きな要因となりました」と話していました。

◆飲食模擬店やPR展示も

この他、主会場の多目的広場では各地域活動協議会による飲食模擬店や、水防団・港漁局・関西電力・NKTなどによる防災コーナー、港区老人クラブ連合会による東北復興支援「さんま祭り」、消防署・自衛隊による車両展示などが、芝生広場では港区社会福祉協議会・港乳幼児センターなどの活動紹介や「ふわふわ牛太郎」「ミニS」「煙体験」「フットサル体験」「公園でいろんな中を探てっ」「スーパースポールすくい」「や・カーリング」などの子供向け催しが小

「煙体験ハウス」に悲鳴を上げる少女ら(上)と、震度七をリアルに体験できた「起振車」(下)



公園や大阪プール裏広場や通路では築港町猫倶楽部、港区障害者施設連絡会(ポートネット)など各種団体・グループによる「啓発展示」「PR展示」「フリーマーケット」「体力測定」などが行なわれ、家族連れなどが楽しんでいました。

◆「築港」防災など熱心にPR

このうち主会場の「地活協議模擬店コーナー」で築港ブースを担当していた阪上真奈美さんは、人気シンガーソングライターのリビート山中さんに作詞・作曲を依頼し、このほど完成したという『築港らんらんらん』をテープで流しながら、築港地区の観光ポイントなどを盛んにPRしていました。

また同じく主会場の「防災グッズコーナー」を担当していた五十代男性（波除の「コンサルティング会社役員」は「地震から身を守るために」「もしもの時に備えておきたい防災用品リスト」などのタイトルのパンフレット類や「緊急簡易トイレ」の試供品を来場者に配布しながら、熱心に防災の備えを呼びかけていました。

◆「親子でも楽しめた」自衛隊員

このうち主会場の一角に設けた「自衛隊車両展示コーナー」で案内にあだっていた自衛隊員の二人は「第三師団の司令部から四人でやって来ました。初めての試みでしたが、特に小さい子供さんに親しんでもらえたと思います。大人



→芝生広場で人気抜群だった「ミニ新幹線」(上)と、各地域活動協議会「飲食模擬店」の活況(下)

の方たちからは『こんな車両が防災にも役立っているんですね』と声をかけて頂き、嬉しかったです。また見学に来られたOBの方は『随分と性能が良くなってるなあ』と感心しておられました。全体として、自衛隊の果たす役割に市民の皆さんの理解が進んでいるという手ごたえを感じました」と話していました。

◆「やりがいを感じる」進行係

また、こうした催しのそれぞれには、進行・放送・清掃・ごみ分別・ライン引き・器具揃え・賞品渡し・得点表示などに汗を流す体育指導員や青少年指導員、子ども会役員・町会役員など様々な裏方の働きがありました。そのうちの一人で、舞台袖で進行表をチェックしながら出演者に声をかけるなどしてプログラムの円滑な進行を担っていた岡田豊さん(四九)＝田中校下青少年指導員＝は「青少年指導員になって五、六年になりますが、この役割は初めてです。

港区最大のイベントを支える重要な仕事なので、たしかに神経を使いますが、その分やりがいも感じます」と話していました。

◆「反省と課題」挙げる裏方男性

←自衛隊車両に群がる幼児ら(上)と、ミニ消防車に群がるお母さんたち(下)



また港晴チームの選手として出場しながら裏方として準備や片づけなどにも精力的に動いていた下村靖民さん(五八)＝港晴小学校PTA会長＝は「防災というテーマのもとに多くの区民が一つにまとまり、楽しめたという点では良かった」としながらも、①運動会シーズンなので開催日をもっと早く決定・周知すべきだった②運動会と防災がこちゃまぜになって準備や進行がやりづらかった③防災がテーマなら競技に自衛隊や消防署の参加も得てプロの技を見せるべきだった④開会前から販売を始めた閉会前から片づけを始めるのははじめがなくて良くない→など、今回の反省点はあるいは今後

の課題として挙げていました。

◆「防災テーマ良かった」と六十代女性ら

大勢の来場者のうち、幼児・一人と弁当を広げていた三十代夫婦(三先)は「広報みなとで知って参加しましたが、とても活気ある催しですね。同じく幼児・一人を連れて会場を回っていた三十代夫婦(弁太)は「子供はコーコーつりながら喜んでいましたが、まだまだ回るつもりです」。また初めて参加したという六十代女性(田中)は「自然災害が続く現状からすれば防災をテーマにしたのは良かったと思います。それだけに、そんな日本列島でまだ原発を続ける愚かさをよく感じました」と話していました。

◆「地域の参加多し」と他男性

また来場者のうち、八幡屋の会社に勤める此花区の四十代男性は「会社の同僚に誘われて初めて参加しましたが、此花区の区民まつりと違って、地域の人たちの参加がとても多いように感じました」と話していました。

また、アソカ学園(分館の保育園)の運動会が終わってから来たという福島区の二家族(七人の母親・一人は「起振車による」地震体験や

「ごみの分別回収に携わる町会関係者ら」と、出演者に声をかける進行担当者⑨



(自衛隊車両・白バイ・三消防車への)体験乗車は、役に立つだけでなく、子供たちにとっても喜んでいました」と話していました。

◆「自衛隊参加に危惧」とNPO会員

また来場者のうち平和と福祉を目的に活動するNPO会員の六十代男性(港晴在住)は「集団的自衛権の行使容認が閣議決定されたあと、自衛隊と来車の協力を日本近辺から全世界へと拡大する動きが急ピッチで進んでおり、その一方で、最近の異常気象による災害多発に乗じて市民に愛される自衛隊がPRされていますが、元来、災害救助で自衛隊は別なもの。今回、区民まつりに自衛隊が参加したことは、明らかに

そつしたPR活動の一環であり、一市民として大きな危惧を覚えます」と話していました。

◆「同時進行など改善を」と男性来場者

また来場者のうち田中在住の六十代男性は「全部の会場や「コーナー」を一通り見て回りました。昨年も感じましたが、多彩で活気がある反面、たくさん催しが広い会場でも同時進行するため、せっかくながら来て一部にしか参加できない人が大半ではないでしょうか。多彩であればよいというのではなく、区民が実質的に参加できる工夫をすべきです。また今回は昨年と違って実行委員会形式で運営されましたが、そつした変更の狙いはどこにあるのか、さらには予算・決算はどうだったのかなどを、広報などを通じて区民に明らかにすべきではないでしょうか。そつした改善を重ねてこそ開催ごと、区民まつりの名にふさわしい進化が得られるのだと思います」と話していました。

「防災」をテーマにかつてない形で開催され、一定の成果を収めた「港区民まつり」。参加者や裏方の声を踏まえてさらに充実・発展させたいとが期待されます。

あさやけ

「右を向いても左を見ても馬鹿と阿呆の絡み合い」（鶴田浩一『傷だらけの人生』昭和四五年）と嘆きたくもなる内外情勢の中、久々に明るくニュースが入りました。京都大学の新総長に「ゴリラ研究で有名な山極寿一教授が選ばれたのです。京大新聞（十月一日付）に掲載された、その就任の弁や良し」曰く「長い京大の歴史の中へ経営のプロ的な国際人が乗り込んで来るのは頂けない」「トップダウンでなく現場に根差した自由闊達な議論による合意形成こそ物事をスムーズに進める」「国際フロンキングなどの数値目標を追い求めるのは愚か」「英語と文字は世界で活躍できるという考えは浅はか」「様々な言語で自分の考えを構築し、色んな国の人たちに自分や相手を高めるために討論できる人材こそ求められる」「履修生が一人の学問でも軽視してはならず、多様な学問があるように大学の価値がある」「学生を顧客としてサービスする迎合的な姿勢ではなく、伝えるべきこと

をきちんと伝えるためにこそ授業は行なわれるべき」（全て筆者要約）▼近年幅を利かせる「グローバル化」「市場原理」を錦の御旗にした「大学改革」への堂々たる反論です。松本・前総長以来の流れに抗つ勇氣と共に、その人物に「票を投じた教職員の良識も讃えられるべきでしょう。若い頃、浪人しても届かんかった同大生。もっぺん挑戦してみたらかいな、ホンマ。

× × × × × ×

時は二〇〇一年。米ニューハンプシャー州のウォルマート副店長マイケル・ライスさん（当時四十八歳）が接客中に心臓発作で倒れ、一週間後に亡くなりました。が、死亡保険金三〇万ドル（三〇六〇万円）は彼の家族ではなくウォルマートへ。同社は彼に内緒で生命保険をかけ、自らを受取人にしていたのです。しかも同社は他の従業員三十数万人にも保険をかけていたと百状▼当然ながら会社が社員の命に保険をかけるのは違法でした。が、一九八〇年代にその規制が緩和され、九〇年代には会社所有型生命保険（COOLIC）が登場。本人への通知も許可も不要な上、退職後の死亡にも企業は金を受け取れる仕組み

おまけに税制優遇まであって、一〇〇〇年代初頭にはこのCOOLICが米国の生保契約の二割に達し、引き続き巨大市場へ成長中とが▼以上、本紙と交流がある地域紙「長岡新聞」（下関市）のコラムからの要約ですが、「米国も」これまで来たかと驚かされたものです。ただ同紙はこの現象を「資本主義終焉の象徴」と捉えていましたが、筆者はさら「この世の終わりの徴」と受け止めました。聖書によると「悪が地に溢れ、その心の考えの全ての傾向が終始ただ悪に向かう」人類が大洪水でリセットされたのは約四千四百年前。以来、無数の試行錯誤を経て辿り着いた「自由・民主・人権社会」。その最新最強の製品が、

「死に先物市場」とは。他にもテロや詐欺や退廃文化が溢れ、やはり聖書にあるように、創造主が「人を造った」と悔やまれているように思えてならないからです▼洪水がいつ起こるかはその神のみぞ知る。それでも神に従順なノア一家が難を逃れたように、現代人にも逃れ道はあるはず。それを見つけられるかどうかは結局、この「終始ただ悪に向かう世でどう生きるかに懸かっているように思われます。

区民主体のまちづくり

区政会議で中間評価、意見交わす



→「港区運営方針」の中間評価などをテーマに
論議が交わされた今年度第二回の港区区政会
議 十月二十九日夜、港区役所五階で

「運営方針はほぼ順調に進んでいる。さらに
前進していく」。十月二十九日夜に港区役
所で開催された今年度第二回の「港区区政会議」
には委員三十八人（四十九人中）と区役所職員
二十数人が参加。「区民主体のまちづくり」など
の課題が今年度前半にどれだけ達成されたかを
振り返ると共に、年度後半に向けてどう取り組
んでいくかなどが話し合われました。

◆「順調に進捗」と中間振り返り

会議は武智虎義議長が進行。田端尚伸・港区
長が冒頭挨拶で活発な論議を呼びかけました。
中心議題の「平成二十八年度港区運営方針の
中間振り返り」では、担当職員から、①区民主
体のまちづくり②安全・安心・快適なまちづく
り③健やかにいきいきと暮らせるまちづくり④
子育て世代が魅力を感じるまちづくり⑤訪れた
い魅力と活気あふれるまちづくり⑥自律した自
治体型の区政運営の六課題について「ほぼ全
ての取り組みに予定通り着手し、順調に進捗し
ている」との概括が示され、その上で各課題に
ついての具体的な進展状況が報告されました。

この中では「地域活動協議会の広報紙が全枚

「港区区政会議で議長を務める武智虎義さん」と、あいさつする田端尚伸・港区長①



下で発行されるようになった」「ミニミニペ
ジネスとして広報みなと配布が七つの地域活動
協議会へ委託された」「地域防災計画つくりに向
けて全地域で計百回のワークショップを開い
た」「がん検診の啓発記事を広報みなと九月一
面に載せたら受診率向上に大きな効果があつ
た」「中一ギャップ問題（中学進学時のストレス
からの不登校など）の解決に向けた取り組みを
進めている」などが注目されました。

◆「認知症対策など」意見と対応

続いて、この間の各部会へ出された主な意見
が紹介されると共に、それに対する区役所の対
応・考え方が示されました。

この中では、「築港に観光客が多い」ことを踏ま

えた防災計画を」(防災・防犯部会)→「警察消防・海遊館など連携を強める共に、それらを港区防災計画に盛り込む」(区役所)、「高齢徘徊者の数や支援の方法は」(福祉部会)→「数は把握していないが、認知症の人を登録して行方不明時に捜索協力できる『ひまわりじゃらん』事業の充実などに取り組む」(区役所)、「『子ども110番の家』を子供自身が分かるように」(子ども青少年部会)→「広報・ホームページ等での周知や関係団体との連携、研修会実施などに取り組み」(区役所)などが注目されました。

◆「災害時の個人情報提供」などで質疑

以上を受けて質疑応答が行なわれましたが、その中では、「災害時に要援護者などの個人情報地域ですべて使えるようになれば嬉しい」(福祉部会委員)→「大阪市の防災計画の改訂で災害時の個人情報提供へのハードルが下がったので、受け入れ態勢が整った地域から自主防災組織へ要援護者リストなどを提供していきたい」(区役所)、「消火ポンプが地域に1つ1つしかないのは心もとない」(防災・防犯部会委員)→「管轄の消防局に現状を伝えたい」(区役所)、「災害時連

絡用の無線機が南市岡に三台。九町会に一台ずつほしいが六台足りない。独自購入も考えてよいか」(防災・防犯部会委員)→「何台とは言えないが、厳しい区予算の中でも増やしていきたい。それを補完する形での独自購入は嬉しい」(区役所)「子供虐待の件数は？」(防災・防犯部会委員)→「相談件数は平成二十四年度が六十六件、二十五年度が七十八件と増える傾向にある」(区役所)、「区政会議の内容を画像や映像で伝えられないか」(防災・防犯部会委員)→「より広く分かりやすい広報を検討していきたい」(区役所)などが注目されました。

◆「課題解決型の行政を」と区長

またオブザーバー参加の藤田明市あけいち市会議員からの「区役所職員は区独自の権限を踏まえた踏み込んだ対応を」との指摘に対しては、田端区長から「平成二十五年度に始まった『自律した自治体型の区政運営』の中で、まだ市職員であることとらわれた対応も残っているが、例えば関西広域連合での協議が停滞する中で、区役所の担当者が独自に市交通局に働きかけて区内三駅の改札内への津波避難を可能にする協定書

づくりを進めているのは『自治体型職員』としての自覚の表われであり、今後ますますした意識をもつて課題解決型の行政を進めていきたい」との見解が述べられました。

◆「学校選択希望」は低率

このあと、「その他」議案として、①学校選択制希望調査では小学校が三七・七％、中学校が五・八％(十月二十四日現在)といずれも選択希望は低率であった②区内の公衆便所などで同一人物によるとみられる外国人攻撃・生存権否定の落書きが連続発生しているので注意通報が呼びかけられているなどが報告されました。

◆「真摯な議論が印象的」と傍聴者

終了後、傍聴したある区民は「区役所職員による丁寧な準備と誠実な対応、それに応えて真摯しんしに意見・質問を出す委員の姿が印象的でした。ただ限られた回数や時間では仕方ないでしょうが、区役所からの報告が大半を占めること、論議が質疑応答に留まとどまっていることが気になりました。各部会では活発に意見が交わされていると思いますが、全体会合でもそういった深め合いがとまらぬようにしてほしい」と話していました。

叫びたい！

こにし まさと

小西 正敏さん（六三歳、甲）



中学給食どうあるべき

人気メニュー中心の在り方に疑問

大阪市の中学校では今年度から一年生を対象に「デリバリー方式（業者宅配）による学校給食が本格的に実施され、食中毒防止などを理由に冷蔵保存された弁当が提供されています。

しかし生徒から「飯が少ない」「とか」「冷たい」「おいしくない」などの苦情が寄せられたの

で、一学期からは「飯の量もある程度調整できるようになり、また汁物も食卓に入れて温かい物が配送されるなどかなり改善されました。

また「おいしくない」との声に対しては、十一月からはビーフシチュー、豚肉のしゃぶしゃぶおろしポン酢、鶏肉のチリソースかけ、十二月からはきのこソースハンバーグ、タラのムニエル青しそソースも加わると聞いています。

これらの新メニューは夏休み中に生徒と保護者、計約千五百人を招いた試食会で、冷めてもおいしいと評判の病院食用レシピに基づいた十二品から選定されたもので、このうちタラ料理は、生徒が選んだ肉料理四品だけではバランスがとれないため市教委の判断で追加したとか。

◆新メニューは濃い味付け

そこで読者の皆さんに聞いてほしいのは、採用の五品は主に洋食と中華で、はつきりした濃い味付けである点。保護者に「素材の味が生きている」「だしが効いておいしい」と好評だった茄子とほうあん、七福彩り八宝菜、高野豆腐と煮物盛り合わせなどは、生徒には「味がしない」「おいしくない」などの理由で主に落選した

のです。また五品のうち豚肉料理が唯一の和食ですが、これもポン酢が生徒の口に合わないとの理由で醤油味にアレンジされました。

◆完全給食でも生徒に迎合

そこで私が指摘したいのは、まだ本当の味覚を持たない成長期の生徒に人気のメニュー中心の給食に切り替えて、真の食育ができるのかということです。市教委は本来「完全給食」（自校や給食センターで調理した温かい物を提供する）を実施すべきであったのに、調理設備を整える予算がないため、民間業者のデリバリー方式を採用しました。そのため、子どもに受け目を感じ、迎合して、生徒に人気のあるメニューを提供することだけに一生懸命になっていると思えて仕方ありません。

◆成長期には栄養バランス

学校給食の主たる目的は、成長期の生徒に野菜・肉・魚など栄養バランスのとれた食べ物を過不足なく提供することであり、それに沿った内容に近づけることが、大阪市の中学校給食には求められていると思いますが、読者の皆さんはどうかをいってください。

叫びたい！

おおの
大野 ひろ子 さん (南市岡)



ええ加減にせい！

消費税一〇割なんて認めん

◆ 反対は七割を超えてる

東京新聞社の報道によると、同社加盟の日本世論調査会が九月二十七日、二十八日に実施した全国面接世論調査の結果、七割を超える人が消費税一〇割への再増税（来年十月予定）に反

対しています。次のデータを見て下さい。

・ 消費税一〇割への再増税＝賛成 五割、反対 七割

・ 反対者の男女の比率＝男性は八八割、女性は七七割

・ 反対は大都市より小都市や郡部が多い

・ 八割になって家計が厳しくなったと感じている人＝八八割

・ 一〇割にする場合の負担軽減策＝生活必需品の消費税率を低くする「軽減税率」の導入を六〇割が回答

このように再増税反対論が広がる中、安倍首相は今年十二月に最終判断するつもりですが、新内閣は再増税強行の布陣です。みなさん、庶民の生活と世論を無視して一〇割を強行するのを容認できますか？

◆ 実質賃金は下落の一途

この春、財界に賃上げ要請までやって「アベノミクス」の成果を演出しようとした安倍首相ですが九月三十日発表の厚労省統計によれば、実質賃金は十四カ月連続の下落です。前年の同じ月と比べると、次のようになります。

・ 五月はマイナス三・六割

・ 六月はマイナス二・八割

・ 七月はマイナス一・七割

・ 八月はマイナス二・六割

四月以降ぐにビジネスと生活への圧迫を実感してきましたが、数字を見れば納得。実際にはおそろしく、もっと実質賃金が低いのではと思われませんが、ほんまに生活に余裕がなくなってきましたよね。

◆ 消費税はからくりが

ところで再増税に賛成の人でも五割が「社会保障制度を維持するためには…」という条件付きですが、ここで大いに気になるのが「ほんまに消費税しかないの？」という点です。そんな疑問を解くために知っておきたいのが、消費税にはからくりがあるということです。

◆ 輸出大企業はもった

ひとつは、輸出大企業には消費税がかからず、逆に還付金ももらえるという仕組みです。

二〇二二年度（消費税は五割）、トヨタは一八〇億、日産は九〇六億を還付されています。これが一〇割になったら約一倍の額になる

のです。まさに濡れ手に粟。

このため、この会社の本社所在地の税務署は、消費税収入が大幅赤字に。二〇一一年度、愛知県豊田税務署は二二六五億円、神奈川県神奈川税務署は五六一億円の赤字だったそうです。中小零細業者や個人店が身を切る思いで納めた税金が、トヨタや日産のフットコクに流れていることですよね。何となく！

◆派遣労働者が多いほど消費税は安い

もう一つは「仕入額控除制度」というものによって、仕入高が多いほど税額が低くなる仕組みです。仕入額には人件費は含まれませんが、派遣や外注の費用は含まれます。なので、直接雇用ではなく派遣労働者や外注が多いほど納税額は減るわけです。「消費税上げる」「派遣法を変える」と呼ぶのは輸出大企業、グローバル企業。本性が透けて見えてきました。

◆法人税大幅減税で消費税を喰う

永遠に「足る」とを知らない貪欲な巨大資本家たち。その番人である安倍内閣は、さらに法人実効税率を大幅に下げようとしています。来年度から始め、三年間で二〇割まで下げてい

くと言いつ放っています。息絶え絶えの庶民、中小零細企業に消費税増税を押し付け、大企業には臆面もなく大幅減税しようというのが、

現在、法人税は二五・五割、法人実効税率は三五・六四割ですが、三十年前の一九八四年には四二・三割でした。この年、国の消費税収入はゼロ。法人税収入は九兆円。これが二〇〇九年にはついに逆転、消費税収入が法人税を上回りました。この輸出大企業は国家予算の何倍もの内部留保をため込んできたのです。結局、大企業が消費税を喰ってきた、大企業減税のための消費税と言えないではないでしょうか。

◆反対世論も下げよう！

今や貧困層が多数派の日本。一〇割では多くの人が暮らしていません。消費税のからくりを知れば知るほど「ええ加減にせい！」と叫びたくなります。諦めは禁物。問われているのは私たち一人ひとりの意思、表現、行動ではないでしょうか。反対世論を盛り上げ、安倍政権を揺さぶり、増税を阻止しましょう！

（港区同南会支部 〇六五八二・四八五八）

啓蒙的・実益的な情報

あれこれガイド

●池島ふれあいまつり 地域の誰もが交流し

楽しめる健全な文化の場として町ぐるみで盛り上げる恒例イベント。三十四回目。十一月二十三日（日祝）十時十五時半、池島公園（雨天時は池島小学校講堂）で、入場無料。①ふれあいステージ（幼児や小学生の歌や踊り・和太鼓演奏・韓国舞踊・大道芸など）②ふれあい広場（ミニＳＬ・トランプリンなど）③いこいの広場（わらわりの作り・ふれあい喫茶など）④ふれあいキッズ（紙芝居など）⑤バザー・模擬店など楽しい企画が毎年好評。写真は昨年の会場風景。池島地域活動協議会が主催。〇六五七一・〇二



〇〇海の子学園池島寮。

● **中山千夏講演会** 「原邦あかん・橋下いっ

ん・弾圧やめてー」「国家はあかん、個人でいこうー」がテーマの集会。メインは「子役と女の目から見た戦後」と題する女優・中山千夏さんⅡ写真Ⅱの講演。戦後を鋭く写し取ってきた

伝説のカメラマン・福島菊次郎さんⅡ写真Ⅱの

写真展を同時開催。二人のトークショーも(高齢の福島さんの体調により中止も)。他に全港灣

大阪支部・山元一英委員長の特別報告「ほんま

にヤバイで、TPP、パギャン(趙博さん

の「プロテスト・ソング」、ナオキさんの「ス

タンダップコメディ」、各戦線のアピールや福島

報告、沖縄便りなど。十一月三十日(日)十五

十九時に港区民センター(弁天一・一五、

六五七二・二〇二〇)で。途中休憩と喫茶軽食

(要実費)あり。十四時開場からの二時間と終演

後の三十分は自由交流可。入場料は徴収しない



が事前に参加協力券(千円)が必要。申込方法な

ど詳細問い合わせは主催の実行委員会「コラボ

玉造」(〒543・0013 大阪市天王寺区

玉造本町八・一八 酒井ビル一・一〇三号室、

TEL・FAX六七八三・〇二二、メールt

amazon@fanto.orgへ。

● **ワークみなど「東北食品市」** 東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所

が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製

法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆

豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心

画面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から

(売り切れ次第終了)▽ワークみなどは主に精

神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定

障害福祉サービス事業所(夕陽一・一六・三、

六五七二・七五二二)。

● **ムチ打ち省・腰 無料相談会** 交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談

会。十一月十三日(日)十・十八時に行政書

士のむら事務所(築港二・七・一六〇八)で。

一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで)。

「どうしたら正しいな補償が得られるかをアドバ

1人で悩まないで!

職場に組合のない人、アルバイト、パート、臨時・契約労働者……。ユニオンおおさかはひとりでも、誰でも入れる労働組合です。働く人々が地域で助け合う新しい組合です。

毎月の会費は、収入に応じて1000~3000円。経験豊かなスタッフが親身になって解決へ努力します。まずお電話下さい。無料。秘密守ります。

ユニオンおおさか

☎6575-3133 築港1-12-27 労働会館内

イスします「事故後、早めの相談が良い結果に

つながります」(同事務所・野村光恵さん)。E

メール info@jikko110-nomura.com、TEL六五七六・六〇七八、F

AX六五七六・六〇七九。

● **障害年金もれの心当たりある人は相談を**

障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害

年金を受けられるのに請求手続きをしていない

人が相当数(身体障害者では〇・四割、二万人

程度)にのぼることが厚生労働省の調査で判っ

た(二〇二三年七月)。原因の大半は、「障害者

手帳に記載されている等級」と「障害年金の受

給要件となる等級」にずれがあること。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければ、いつまでたっても支給されないことになる。心当たりのある人は市岡年金事務所（磯路三・一五・一七、☎八五七一・五〇三二）まで。

●石綿（アスベスト）パンフ 肺がん、中皮腫などの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死が「アスベスト（石綿）」によるものだ」と認められただら、色々な給付を受けることができる。このパンフレット＝写真＝は

その病気、その症状は
アスベスト
石綿が原因
かもしれません

ご家族に、肺がんや中皮腫などで亡くなられた方はいませんか？

息切れ、胸が苦しいなどの症状が出ていませんか？

石綿による疾病と認定された場合、各種給付を受けることができます。

◆お心当たりのある方は、以下の機関にご相談ください。

- お近くの労働基準監督署または都道府県労働局
- 独立行政法人 環境再生保全機構（ERCA）

厚生労働省 環境省 独立行政法人 環境再生保全機構

そんな人たちや家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気と分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合どこへ問い合わせてらよいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構（ERCA）がまとめたもの。タイトルは『その病気、その症状は石綿（アスベスト）が原因かもしれません』。「コンパクトで分かりやすい」（区内六十代男性）と好評。港区で暮らすか働いている人なら港区役所（市岡一・一五・一五）三階の港区保健福祉センターのチラシスタンドに設置してあるものを無料でとれる。

●大阪商工団体連合会（ていしん）を守る制度の手引き（大阪市内版） 「市民税が非課税になる」と保険料や自己負担が軽くなる「国保料や医療費の支払いで困った時は」「介護保険料や利用料が非課税世帯は安くなる」「国民年金の保険料も申請で安くなる」「子育て世代やひとり親世帯の負担軽減」「生活困難なときは生活保護を受けよう」「滞納処分（差し押さ）から生活を守ろう」などの項目で、市民生活に役立つ制度や対処法

2014年度 大阪市内版

くらしを守る 制度の手引き

早めに民商に相談してよ！

発行：大阪商工団体連合会

を紹介するパンフレット＝写真。直接は市内の中小零細業者向けだが、一般市民も希望すればもらえる。問い合わせは港民主商工会（夕凧二・一〇・一六、☎八五七一・七八七）まで。

駐車場 月18,900円

★24時間入出庫可
★屋内につき安心
★敷金なしでも可
★車庫証明発行可

ミドルーフ車
車庫高さ1.85m

大好評 受付中

カービレッジ216（朝潮橋方面）
中央区大通り 43号線
港 区 磯路2丁目1-4
＜営業＞AM8時～PM8時
☎6577-8731

みなとサロ

緊張感の欠如

（池島・勝部 泰臣 八十一歳）
かつへ やすおみ

政治に関心はあるが、政治家にはない。とは
言いつものの、ここ半年の間、政治活動費の不正
支出や政治資金規正法違反が新聞・テレビで連
日報道される。この人たちが私たち有権者で
では価値観や金銭感覚が余りにも違い過ぎて
無関心を決め込む訳にはいかない。
ある人は大臣になったがためにバシてもつた。
一方、ならなくて良かったと胸をなでおろして
る議員も多々いると察する。大臣クビになった
過去の例が物語っている。

以前から気にしていたが、どうもこの国では
民主主義が健全に育つ土壌が無いのではないか。
月曜日の新聞に出る各地方自治体の首長選挙の
結果を見ても、六〇割どころか五〇割にも満た
ない投票率があちこち見受けられる。年代別で
は六十代がトップで二十代の率は三〇割以下だ

そつだ。

もう一つ。オレがワタシがあなたを議員にし
てやったんだ」といふ恩着せ型が、日本独自の
義理人情に絡んで何と多いことか。根本から投
票という行為の認識が間違っているから、何のた
めの後援会か分からない。おかしい悪習慣がこ
びりついている。

八十前後の人たちはどう思っているだろうか。
恐らく「今の世は上から下まで若男女問わず
緊張感がない！あの戦後の不自由時代に比べ
れば」といったところだろう。

豊かさを求めるもよし、スマホに振り回され
るもよし。だが、たまには自分の内面に静かに
問いかけてみるのも大切なことじゃないかと思
ったりする。

.....

金婚夫婦のコメントに共感！

（市田元町・七十年代 元公務員）

「長年の貢献お疲れ様！敬慕の口各地で祝
賀会温かく」（十月三十一頁）を温かな気持ちで読
みました。三先地域の各層がそれぞれの得意を
生かして高齢者をもてなされている様子が豊富

な写真と共に伝わってきて、その場にいるよう
な錯覚を覚えめました。特に最後の金婚夫婦（勝
幸蔵さん夫妻の紹介とインタビュー）が良か
つたです。空襲や食糧難などを潜り、私と同じ
公務員としての経験も経て、懸命に戦後を生き
抜かれたこと、そして命が粗末にされる今の世
の中や日本社会の行く末を心配する気持ちを持
たれていることに、深い共感を覚えた次第です。

.....

「都構想」にもっと根本的批判を

（市田・六十代男性）

「叫んでいこうー」の江川広志さんの提言
（十月三十一頁）を読んで。橋下市長ら大阪維新
の会が提唱する「大阪都構想」について、維新
議員だけでなく進んでいるよう、リーダーが
増えて「重行政解消にならない」と、政令市の
権限がなくなり財源も減ること、無駄な「コスト
やプロセスが生じること」等々、問題点をよく
整理して示されているのはさすがだと思います
た。ただ、この構想がそもそも誰のために推進
されようとしているのかという根本的な問題を
もっと厳しく追及しないと、効果的な批判・反

論にはならないと思いました。つまり橋下氏らの頭に市民はなく、専らアメリカ財界や関西財界が喜ぶカシノやリニアにお金をつぎ込むためにこそ、その受け皿として「大阪都」を作ろうとしているという指摘を抜きにしての反論は、「重行政解消のための単なるやり方の違い」としか見られないということです。その意味で江川さんの提言は、問題点の整理には役立ったものの、やや物足りなく、もどかしい印象を受けました。「叫んでいいのも」欄はいつも注目しており、今後に期待しています。

「うちうちマラソン」について

（甲・小西正敏 六十三歳）

今年で最後の「うちうちマラソン」(二三四頁に記事)にボランティアとして夫婦で参加しました。初めて参加したのは第二回で、今年で三回目です。担当場所はいつも、私達夫婦の希望でもあり、港区で一番大好きな場所でもある大保山公園内です。連れ合いは大阪城での案内ボランティアで鍛えた得意のガイドぶりを発揮し、日本一低い山として全国的に知られた大保山山

頂で、大保山の歴史をランナーや観光客に説明する役目、私は大保山渡船場へランナーを誘導しながら声援を送る役目です。このような形で、どれほどお役に立ったか分かりませんが、港区の素晴らしいさが全国から来られた方々に少しでも伝われば、「われわれの喜びはあります。これまで「うちうちマラソン」を支えて来られたスタッフ及び関係者の皆さんに改めてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。また、今後も夫婦で港区のために何らかの形で少しでも関わっていければ、こんな幸せなことではないと考えています。

八幡屋公園のトイレについて直る？

（此花区・六十代男性）

八幡屋公園入口のトイレが九月十一日朝、何者かの放火によるとみられる激しい火災で使用不能になりました。私は港区の住民ではありませんが、気持ちの悪いこの公園は家内と共によく利用しますので、とても残念に、また腹立たしく思っていました。しかし、女子用や障害者用はその後、使えるようになったものの、直接

「九月十二日に発生した火災で全面的に使えなくなった当時の八幡屋公園入口のトイレ①と、二カ月以上たった今も使えない男子トイレ②



の被害に遭った男子トイレが一月以上たった今も封鎖されたままです。管理者は努力されているのでしょうが、余りにも遅い復旧が気になってしまいます。

港新聞から 十月七日に八幡屋スポーツパー

クセンター担当者に訊いたところ「火災は非常に激しいもので、ドアや壁の破損だけでなく、便器や配管も損傷が著しく、専門業者に修復を依頼しているものの、費用・工事内容ともかなりの規模になると予想されます。市民の皆様には本当に申し訳なく思っていますが、十一月中までには利用が再開できるよう努めて参ります。

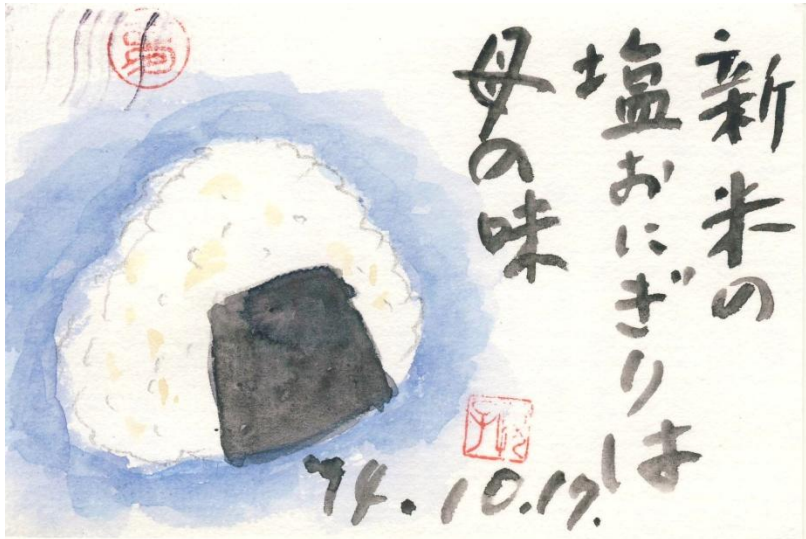
すので、それまでは不便をおかけしますが、同公園内の別のトイレを利用して頂くようお願い致します。」とついでにうかがった。

関係者の心に届く目配り取材

（池島・五十年代男性）

「わざわざ来ついで」（十月三十一頁）と「ふれあい音楽会」（同二頁）の記事を読んで、縁^{えん}あつてこちらにも関わりましたが、詳しい内容紹介だけでなく、参加者や裏方の感想、また問題点や今後にまづ目を配った取材は、必ずや主催者の心に届くと思われました。中でも「わんぱくまつり」では初導入の「白田チケット」に対する子供の立場に立った議論の勤めが、「ふれあい音楽会」では「生徒たちの誠実な態度が社会に出てからも失われることがないように」という参加者「メント」が、心に熱く残りました。単にイベントを重ねるだけでなく、一つ一つの視点をもって絶えず改善・充実を図る姿勢こそが関係者には求められるのではないのでしょうか。「ふれあい港区」への「貢献」という書紙の発行目的が伊達^{だて}ではないと改めて思った次第です。

↑辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙



戦争体験に災害時の教訓も感じた

（八幡屋・四十代女性）

杉原麻子さんの「平和のため戦争体験語り継ぐ」（十月三十四頁）を読んで、し連の参戦で

北朝鮮へ逃^{のが}れたのに、敗戦で事態が急変して、また元の満州へ戻るといつ大混乱の様子が良く分かりました。お腹^{なか}に子を抱えた杉原さんはさぞ大変だったことでしょう。この苦難を越えられた精神力の強さや周囲との助け合いが、震災など災害時の教訓としても大切だと改めて感じられました。そして何より、戦争は庶民ではなく上の人たちの都合で起すものであり、それに一方的に動員され、使われ、旗色^{はたいろ}が悪くなったら容赦^{ようしゃ}なく放り出される姿に胸が痛みました。また毎回感じてくるのですが、戦争を知らない世代のために辛い過去を語られる杉原さんの勇氣に心からの感謝を捧げます。

「浪曲まつり」目に見えなびライブ感

（北区・八十年代 自由業）

『義理と人情に酔う 築港高野山』浪曲まつり『活況』（十月三十二頁）を読んで。出演者の春野恵子さんの語りは聴いたことがあります。停電のハプニングにも負けず演じ切ったというライブ感溢れる記事に、彼女の高座^{こうざ}が目に見えなび、ファンとして嬉しかったです。

弱者目線の改善求める

社会保障で区民が区役所に



→ 社会保障全般に亘る市区民の声を区役所担当部署に伝えた大阪社会保障推進協議会「港区役所キャラバン」 〓 十月九日、港区役所五階

「弱者の視点に立った改善を」。医療・介護・福祉など社会保障全般に亘る^{わた}市区民の実態と要求を港区役所の担当部署に伝え、施策の改善を求める毎秋恒例の運動「港区役所キャラバン」が、今年も十月九日午前、港区役所五階で開かれました。市民団体「大阪社会保障推進協議会」が呼びかけ、区民側からは医療・介護・生活保護などの関連団体会員ら約一千人が参加。区役所側からは窓口サービス・保健福祉・子育て支援・生活支援などの担当者十数人が出席、一時間^{わた}に亘って熱のこもった「話し合い」を行いました。

◆ 正規職員の増員など要望

「この中ではまず、事前に協議会から提出されていた質問に対する大阪市役所と港区役所からの回答が文書で示されましたが、その中には次のような回答がありました（答えは全て大阪市役所。内容は本紙で抜粋・調整）。

「市民に対して責任ある仕事ができるよう非正規（非常勤・アルバイト・パートなど）ではなく正規職員の増員を行なうこと」→「危機的な財政状況のもと、最も効率的な業務執行

方法・体制を追求しながら必要な行政サービスの提供に努めたい」（人事室）「非正規職員にも採用時に適切な研修を実施している」（福祉局）「国保料滞納は生活困窮世帯に多いので、生活保護担当とつなぐなど」区役所内ネットワークを「納付相談では生活保護担当などと連携し、必要に応じた窓口案内をしている」（福祉局）「七十五歳以上の医療費負担を無料に」→後期高齢者医療制度の上で市独自の医療費助成制度を実施している」（福祉局）

「障害者が高齢になって介護保険の対象となった場合でも一律に介護保険サービスを優先することなく柔軟な支給を」→「一律に介護保険を優先させることなく本人の心身の状況等を考慮した支給決定を行なっている」（福祉局）

「生活保護申請者に対して人権無視の対応は行なわないこと」→「社会保障や福祉制度を総合的に考慮検討して、本人に最も役立つ方法を探る一方で、申請意思を確認すれば申請書を交付し、受理している」（福祉局）

「生活支援担当に警察官OBの配置はやめること。尾行・張り込みや市民相互監視をさせる

『適正化』ホットラインを実施しないこと」→
「警察官のBは窓口の安全確保や調査の補助的
役割を担っている。現在、『適正化』ホットライ
ンの実施予定はない」(福祉局)

「生活保護受給者に介護扶助への自弁(じへん)
費用を払うこと」を強要しないこと」→「介
護を実施する機関に対して自弁の可否(本人が
費用を払えるかどうか)を介護扶助の決定要件
(介護サービスを提供するかどうかを決める条
件)としないよう周知している」(福祉局)

◆生活保護などに関すること

次いで、文書回答をふまえた質疑応答が出席
者により行なわれましたが、その中には次のよ
うなやりとりがありました(問いは区民、答え
は区役所。内容は本紙で抜粋・調整)。

「国保加入者が無料定額診療を受けても薬は
有料。市の補助で無料に出来ないのか」→「難し
いが要望は福祉局に伝える」(窓口サービス課)
「市営交通敬老バスの三千円と一回五十円を
生活保護受給者に支給できないのか」→「通院
費などとして請求すれば可能」(保健福祉課)
「生活保護受給者が同じ病気で医療機関を交

えることはできないのか」→「同じ病気では一
つの医療機関が原則だが、医師やケースワーカー
と相談しての結論なら可能」(保健福祉課)
「市営住宅に住む生活保護世帯が段差解消な
どの住宅改修を希望しても許可が下りるまで半
月以上かかるのは福祉の精神から外れる」→
「半月以上もかかるのは問題。実情を局に伝え
る」(生活支援担当)

「生活保護世帯に説明もなく同意書(自分や
家族や親族に係る年金・預金・医療・雇用
などの状態を調べても構いません)というの
出を求める例があるのは問題。また同意書は日
紙委任的な内容でなく、何のためにどこを調べ
るといつ個別の内容に変えられないのか」→「必
ず同意書の趣旨を説明するよう職員に徹底した
い」(生活支援課)

「生活保護申請時にも同意書を求めるのはや
り過ぎではないか」→「申請時に同意書は必ず
しも必要ではない」(生活支援課)

「生活保護者が健康診断を受けた時はどう
するのか」→「大阪市の健康診査を港区役所三
階の窓口で申請すれば二カ月以内で受けられ

る」(保健福祉課)

◆職員非正規率などのデータも

また、同協議会が独自調査や大阪市の回答を
もとに作成した社会保障に関するデータがこの
話し合いの中で資料として配布されましたが、
その中には「二〇一四年度の港区役所の非正規
職員は四人(二割)、うち生活保護担当は一
人(四割)、生活保護ケースワーカーは八人
(二割)」「二〇一四年三月末の港区の生活保
護世帯数は三八一(八・割)、利用者数は四
一九〇人(五・二割)」などがありました。

◆「もっといい声上げたい」と参加者

終了後、参加の七十代男性(南市岡)は「国
や大阪市が悪い方向への大きな流れを作る中で
区役所の職員は庶民の実態や気持ちがあつて
も、どうすることも出来ない。やりとりを聴い
ていてもどかしく、腹立たしかった」。

また七十代女性は「年寄りは早く死ねといわ
んばかりの国や大阪市の福祉政策には本音が
つかりし、怒りが湧き上がりますが、黙ってい
るとよいいなめられるので、これからも声を上
げていきたい」と話していました。

暮らしを支える下水道

好評だった市岡処理場「一般公開」



「生活を支える下水道の役割がよく分かったと好評だった市岡下水処理場「一般公開」」
十月四日（写真は反応槽を見学する参加者）

「港区民の生活を支えてくれる下水道の仕組みがよく分かった」。十月四日（土）に行なわれた市岡下水処理場（市岡一・一五・二五、宮本篤場長）の「一般公開」には区民ら三百五十一人が来場。朝十時から夕方四時まで、施設見学などを通じて、汚水や雨水が様々な処理を経て尻無川へ放流される仕組みなどを学びました。「市区民に親しまれる施設に」と毎年実施されている催しで二十一回目。例年の暑い九月開催を避けて、初の十月開催となりました。

◆ 汚水をきれいにする

このうちメイン行事の「施設見学」では、下水道を通じて場内に流れ込んだ生活排水や産業排水が、①沈砂池（大きな砂や「ゴミを取り除く」）②ポンプ棟（ポンプで汲み上げ次へ送る）③沈殿池（味噌汁の上が澄んでいく原理で汚れを沈殿させる）④反応槽（好気性の微生物で汚れを分解させる）⑤沈澄池（もつ一度汚れを沈殿させてさらに澄ませる）⑥消毒室（次亜塩素酸ソーダで大腸菌などを消毒する）——などを経て尻無川へ放流される仕組みを、職員が処理順に引率しながら説明してくれました。

「綺麗になった沈澄池の水を眺める参加者」と最終処理の消毒の説明を聴く参加者①



この中で見学者は、案内職員の「ポンプ棟ではポンプ三台が自家発電で動き、一日に京セラドーム七杯分を汲み上げます」「微生物は汚れの原因である窒素・炭・アンモニアなどを分解してくれます」「微生物はこの処理場で最も大切なもの。金魚と同じように酸素を送って育ててやり、電気代も一番かかります」「今は微生物を空気でかき回していますが、プロペラなどで効率的にかき回せるよう工事中です」「塩素で最終処理するのは0.157などの発生を防ぐためです」などの解説に、しきりに感心していました。

◆ 大雨による洪水を防ぐ

一方、そうした汚水処理「コース」の途中に訪れ

た「第二ポンプ棟」は、この処理場のもう一つの役割である雨水処理を担う施設。大雨の時に町が浸水しないよう、雨水を尻無川へ排水できる五台の巨大ポンプが設置されています。職員が「全て稼働すると二時間に二十五はプール七杯分の雨水を排出でき、一時間に六十センチくらいまでの雨量なら大丈夫です」などと説明し、スイッチを入れると棟内に轟音が響き渡りました。

◆ 中央監視室も公開

また、昨年初めて公開された「中央監視室」が今年も公開され、同処理場内の各施設の状況や降雨量、港区・西区に四力所ある抽水所（地中深くを通る下水をポンプでくみ上げて処理場ま



→ 第二ポンプ棟でポンプの轟音に驚く母子（上）と中央監視室で遠隔操作の説明を聴く参加者（下）

でスムーズに流す中継ぎ施設の状態などをテレビや計測器で監視したり操作したりする様子を見学できました。「ここでは常時二人が監視・操作しています」とうしたコンピュータによる遠隔操作ができるまでは、抽水所にも人がいて、手動で操作していたのですなどの説明に、見学者は盛んにつなずいていました。

◆ 微生物が汚れを食べる

この他、会場には、①顕微鏡での微生物観察②下水道の仕組みや歴史が学べるDVD上映③ゲーム（わなげ・ヨーヨーつり・プーポンすくいなど）④ミニパト試乗⑤みなりんと遊ぼうなどのコーナーが設けられ、家族づれなどが楽しんでいました。

このうち微生物観察コーナーでは「反応槽」での汚水処理の様子、つまり微生物が汚れをバクパク食へる様子が、顕微鏡の拡大モニターで百倍や二百倍の映像になって手に取るように分かり、子供たちは「あ、食べてる、食べてる」と大喜び。「微生物にはシリガナムシなど何万種類もありますが、処理場によって種類は異なります」「形も大きさも動き方も違う微生物たちが、

← 微生物が汚れを食べる様子を観察する兄妹（上）と、DVDで下水道の仕組みを学ぶ参加者（下）



水の温度や泥の多さなどに応じてチーム編成を変えながら、力を合わせて働いてくれているのです」「微生物たちは髭で汚れをかき集め、それを食べて分解しているのです」などの説明に、見学者は「すごいね」「何度も驚いていました」。

なお来場者には、①クリアファイル（下水処理の仕組みを印刷）②地球環境に優しい肥料③地球環境に優しい透水性レンガなどのプレゼントがありました。

◆ 「仕組みについて」と参加者

参加者に感想を訊きました。

（このうち母親の鎌田雅子さん（四八）に連れられ、妹の菜子ちゃん（弁天小一年）と一緒に初め

て参加した泰輔くん(同五年生)は「特に施設見学が印象に残りました。中でも一日に京セラドーム七杯分を汲み上げる三台のポンプのパワーや、微生物に汚れを食べさせて水をきれいにする仕組みにはびっくりしました。まだ目立たない所で二十四時間、二百六十五日、僕たちの暮らしを支えて下さる職員さんたちには感謝したい気持ちで一杯です」と話していました。

◆「手づくり準備」職員

同じく施設見学などをした川上さん(弁天在住の六十八歳男性)は「初めて参加しました。ある程度の予備知識はありましたが、現場を直接案内してもらってさらに理解でき、感謝しています。特に微生物の働きは素晴らしい、信じられないと思います。また港区は土地が低いので大雨の時などにどうなるか心配していましたが、ある程度までならこの処理場で対応できることが分かり、安心しました」と話していました。

また、案内に忙しく動いていたある職員は「(市政改革で)三年くらい前からこうした行事にお金(お)が下りなくなったので、イベント業者に頼まず、自分たちでゲームを手作りするなどして

「職員手づくりのヨーヨーを釣って楽しむ親子」と、みなさんと遊んで喜ぶ男の子ら(左)



て準備しています。これから市民の皆さんにこの処理場へ足を運んで頂くため、一層努力したいと思っています」と話していました。

◆進化する処理設備

なお、この市岡下水処理場は一九八一年四月、市内に十二カ所ある下水処理場のうち四番目に完成。処理区域は港区全域と西区の一部、合わせて八二ハニ。一日当たりの処理能力は十立方メートル。区域内には四つの抽水所ポンプ場があります。

下水の処理方法は、最初は簡易な洗殿法でしたが、一九八一年五月から「活性汚泥法おでい」による高級処理が可能になり、塩素消毒をして尻無

川へ放流されるようになりました。また下水処理で生じる汚泥は、当初は同処理場で濃縮して「遠心脱水処理えんしん」されていましたが、一九八六年五月からは津守処理場(西成区)へポンプで送られて処理されるようになりました。

さらに一九八六年五月から毎秒四・五立方メートルの排水能力をもつ「雨水排水用ポンプ」が稼働、浸水解消に大きな役割を果たしています。

そして二〇〇二年三月には大阪市の初めての「雨水滞水池たいすいち」が完成し、それまでは雨天時に放流していた降雨初期の汚れた雨水を貯めておき、晴天時に高級処理をして尻無川へ放流できるようになりました。

◆昨年度から運営が民間委託に

現在、同処理場は大阪市建設局の所管ですが、「民間原理導入による運営効率化・収益増加」などを目的とした大阪府下水道事業の「経営改革」により、維持管理業務は昨年度から一般財団法人都市技術センターに委託され、そのため職員も同センターへ派遣される形で勤務。通常、昼間は十二名、夜間は三名の職員が働き、台風などの非常時には増員されます。

平和願い入魂のジャズ

港のつどいで藤井・滝川さん



→ 平和や教育を考え合う場として開かれた「港のつどい」(写真はピアノ・藤井美穂さんとクラリネット・滝川雅弘さんのジャズライブ)

「つながるつー平和のために」守るつー子ども
の未来を！」を合言葉に港・大正・西区の幼
小・中教職員や地域の人々が交流する毎秋恒例
イベント「港のつどい」が今年も十月三日(金
夜、港区民センターで開かれました。四十五回
目。主催は大阪市学校園教職員組合港支部など
区内外の諸団体から成る実行委員会。

◆ 市の教育の危機に警鐘

つどいでは浜口徹実行委員長(大阪市学校
園教職員組合港支部長)が挨拶に立ち、「大阪市
では鳴り物入りで導入された民間人校長のうち
二人が辞職し、二人が懲戒処分を受けるなど、
教育現場を大混乱に陥らせている。また大正区
に一園しかない市立幼稚園のうち泉尾幼稚園
の民営化が市議会で決められ、今、四四〇〇筆
の署名で撤回を要請している。民営化といえは
聞こえは良いが、市民の財産を企業に売り払つ
ことであり、許されない。その他、『地域に根差
した教育』『少人数のゆとりある学級』という市
民の願いに逆行し、教育を効率や市場原理では
かるかの如き学校選択制や統廃合など、市の教
育がますます歪められようとしている。つどい

← 大阪市の教育の危機に警鐘を鳴らす浜口徹実行委員長(大阪市学校園教職員組合港支部長)



た問題を今日はよく話し合い、考え合い、行動
を強める場にしていく」と呼びかけました。

◆ ジャズについて

このあとメーン舞台では「ジャズで平和を歌
う」と題してジャズピアノリスト＆シンガーの藤
井美穂さんとクラリネット奏者の滝川雅弘さん
が歌と演奏を披露しました。藤井さんは一九
六八年大阪府生まれで関西中心に活動。平和を
願い、脱原発の運動にも携わっています。一
方の滝川さんは一九八〇年大阪生まれで、一時
は教職に就いたがジャズへの情熱捨てがたく演
奏家になったという異色のミュージシャン。

二人は曲の解説や曲への思いを語りて挟みな

から「Autumn Leaves」(紅葉)「East of the Sun On the Street Where you live」(君住む街角)「What a Wonderful World」(すばらしきこの世界)「She Rote」(Take the Train) (A列車で行こう) など新旧のナンバーを次々と披露。時に軽快に、時に迫力を込め、時に泣くように、時に笑うように、時に叫ぶように、時にいつとひと、時に疾走するように、また時には煌めく波のように、全体として非常に自由な雰囲気を漂わせながらの息の合った連続演奏は、聴衆をしばし奔放なジャズの世界に浸らせました。また、やや低音でハスキーな藤井さんのネイティブ並み英語発音やピアノに自在に絡む滝川さんの即興演奏も秀逸で、懐かしの歌謡曲をアレンジした「鈴懸の径」では主旋律を朗々めメロディ・フェイク(旋律を振る)の巧みさが光りました。さらに戦争の中での家族愛を歌った「P.S. Love You」とアンコール曲「You, be so nice to come home」

ment」では、奏者の平和への思いが会場に伝わり、忘れ難いシーンとなりました。

◆パフォーマンズや書名・バザーも

舞台ではこのあと、富田林市のアマチュアお笑い集団「スバルファイブ」が、元気で「ミカ」な動きで「よつかい体操」「すばるファイブ音頭」などを披露、笑いで会場を和ませました。このほか場内では「大阪市立幼稚園・小学校・中学校の民営化・統廃合反対」「三十人学級での行き届いた教育を大阪市会に陳情する書」や、「府立池田北高校・咲洲高校の廃校計画撤回」を大阪府教育委員会に請願する書名が取り組まれると共に、各職場・地域団体によるフリーマー



→元気なパフォーマンズで沸かせた「スバルファイブ」(上)と、賑わう地域団体バザー(下)

ケットやバザーも開かれ、「手づくり小物」風で飛ばない帽子「布ぞつり」毛糸のベスト「ヒー」炊き込み飯「おにぎり弁当」九条「シャツ」九条ドック「クッキー」洋菓子など工夫を凝らした品々が次々と売れていました。

◆「平和や教育者」をめぐって参加者

知人に誘われて市岡から初めて参加したという藤田尚さん(九〇)と北川文字さん(八四)は終了後、「ジャズが良かったです。特に『紅葉』や『鈴懸の径』は馴染みのあるメロディで、ぐっと来ましたね」「平和や教育の分野で大変な事態が生じていることが分かり、市民はもっと問題意識を持たねばと思いました」。

また築港から娘の紗世さん(築港小五年)と一緒に参加した吉川安代さんは「ジャズは素晴らしいかったです。この催しにはこれまで実行委員として出店したり、舞台に出演したりもしてきましたが、平和や教育の問題をみんなできえ合う場として、これからも続いてほしいと願っています。今問題になっている学校選択制や統廃合は、娘にすぐ関わってくる問題でもあり、とても気になっています」と話していました。

労働者と地域が一つに

港合同「交流秋まつり」盛況



→労働者と地域の一体感が印象的だった港合同

「交流秋まつり」(写真はその日の舞台発表)

＝十月五日、南市岡の田中機械ホールで

「秋の一日を労働者と地域住民が一緒に楽しもう」と十月五日(日)、南市岡三丁目の田中機械構内で「交流秋まつり」が開催されました。

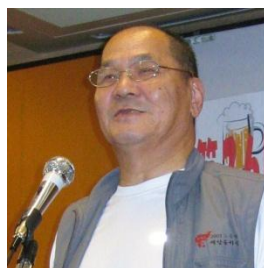
三十八回目。港区を中心とする中小企業労働組合の集まりである全国金属機械労働組合「港合同」と同もちつき実行委員会が主催、「平和と福祉」を掲げて活動する特定非営利活動法人「NPOみなと」が共催。雨模様の空をついて数百人の労働者と地域の人々が集まり、舞台での演芸や屋台での飲食、バザーなどを楽しみました。

◆ 地域との関係を大切に

朝十時からの開会式では司会者(労働組合員なかなつたみえ)の長澤民衣さんひさしと沢田尚さんおんだけんが「御嶽山の噴火などで日本が大変な時に安倍首相は米軍と一緒に世界のごくへでも出かけて行く姿勢を強めている。秘密保護法反対など取り組むべき課題は山ほどあるが、今日は地域の人たちと交流し、色々な催しを楽しみ、明日からの闘いの英気を養つて下さい」と呼びかけました。

主催者を代表して港合同の中村吉政委員長よしまさは「雨模様だが、雨が降っても槍が降つてもやることにこのまつりの真骨頂がある。労働

←主催者挨拶で地域との関係の大切さを強調する港合同・中村吉政委員長(上)と、快活に司会を務めた長澤民衣さんと沢田尚さん(下)



組合と地域との関係は、一般的には難しい面もあるとされるが、我々は、戦争体験など様々な歴史をもつて生きてこられた地域の方々との関係を大切に、これからも『平和』に重きを置いて頑張っていきたい」と決意を述べました。

また来賓として出席した奥野正美市会議員と同事務所の江川広志さんひろしは大阪都構想について「二十四区を特別区に再編して市民の財産と権限の相当部分を売り払つもの。地方分権にも逆行し、許せない」「政令市を確保しての身近な改革こそ真の住民自治につながる。みんなで構想ノーの声を」と呼びかけ、朝鮮総連西大阪支部の沈委員長しんは「朝鮮学校への支援金カットな

「来賓あいさつで大阪都構想反対を呼びかける
奥野正美市議^①と、朝鮮学校への支援を訴える
朝鮮総連西大阪支部の沈委員長^②」



ど在日朝鮮人の人権や民族の教育権が脅かされている。この逆風を追い風に変える闘いに支援を」と訴えました。

◆ カラオケや抵抗歌など次々

このあと舞台では、NPOみなと会員や労働組合員や地域の人々によるカラオケ、抵抗歌シンガー趙博^{（ちょうひろ）}さんの歌と演奏、勤労者歌手金野^{（かねの）}広美さんらのフォルローレ、勤労者バンドのフォークソングやギター演奏、労働組合員による三線演奏や民謡、ジェスチャーや歌と踊り、NPOみなと女性会員による新舞踊などが次々と登場。このうち趙博さんは大阪環状線の沿線風景をユーモラスに綴った『橋』、高齢者が住

みにくい世に怒りをぶつける『老人革命の歌』、原発や核兵器の非人間性を告発する『核々、死か怒か』、この世の理不尽をバワフルに並べ立てた『阿呆陀羅經』などを明快な発声で豪快に熱唱。勤労者バンド「虫明バンド」は「故郷を想う気持ちを大切に」「心に本当の花を咲かせよう」と呼びかける『黄金の花』などの沖縄ソングを、金野さんらは『コーヒールンバ』『コンドルは飛んでゆく』など中高年にもなじみの曲をそれぞれ情感込めて演奏。カラオケでは『対馬海峡』の藤田尚さん^{（ふじた しょう）}（市岡、九十歳）、『花と竜』の生田元之さん^{（なうた げん）}（八幡屋、七十七歳）らがプロ顔負けの喉を披露。いずれも個性あふれる舞台で会場の空気を盛り上げました。



「プロ顔負けの喉を披露した『対馬海峡』の藤田尚さん^①と、『花と竜』の生田元之さん^②」

「『老人革命の歌』などバワフルな抵抗歌で労働運動を励ました趙博さん^①と、沖縄ソングで会場の空気を和らげる虫明バンド^②」



◆ 子供コーナや争議支援バザーも

また屋外では屋台の地ヒールやおでん、焼きそば、焼き鳥、おにぎり、枝豆、鳥の唐揚げ、ホットコーヒ、日本酒、お茶、ジュース、たこせんなどが低料金で売られ、争議組合支援のバザーは完売の盛況。スーパーボールすくい、当て物、ビンゴゲームなどが並び「子供コーナ」や、勝敗を気にせず心ゆくまで対局が楽しめる「将棋コーナ」も賑わっていました。
終盤は全員参加のビンゴゲームで盛り上がり、午後二時ごろ、高揚のうちに幕を閉じました。

←『コーヒールンバ』などで中高年を喜ばせた
金野広美さんら①と懐かしのモンキーズナン
バーを歌う労働者デユオ「ちよかBand」②



◆「組合の力を感じる」と女性労働者

参加者のうち、屋外会場で職場仲間と楽しげに語り合っていた昌一金属市岡に本社、福岡に下場の女性労働者二人(二十代と三十代)推定は「このおまつりにはもう何年も参加しています。地域の色々な方たちと交流できること、それに、同じ会社内でもたまにしか会えない職場の人ともここで顔を合わせられることが楽しみです。朝からビールが飲めるのも嬉しいですね(笑)」。会社では営業を担当しています。が、育児休暇が堂々と取れるなど、女性が気持ちよく働ける環境がつくられてきたことに、組

合港(合同)金属支部の活動の蓄積を感じます」「社会問題では原発が気になりますが、事故発生時の大変な危険を感じる反面、そこで働く労働者のことを考えたら、一律に廃止というののもどうかと複雑な思いもあります」と話していました。

◆「懐かしい顔に会える」と労働者OB

また、やはり屋外会場で地ビール片手に語り合っていた中野優さん(七六)＝松原市＝と黒川昭さん(七六)＝西成区＝は、共に数年前まで田中機械株の労働者でした。「今の日本の労働運動はアカンようになったけど、あの頃の田中機械(一九七八～一九八九年、企業による自己



→「老若男女で大賑わいだった飲食屋台①と、静かな中にも熱気が感じられた将棋コーナー②

←完売の盛況だった争議組合支援のバザー①と、子供に大人気だったスーパースポーツ②



破産、全員解雇、暴力団を使った脅しなど資本の総力を上げた攻撃に対し、工場占拠・自主生産などの実力闘争を基軸に、地域との連帯や法廷闘争も結合させて、絶対不利な局面を打開した、いわゆる「破産・大闘争」(編集部)のみんなの団結はすごかったな。全く乱れてなかった」「このまつりにはもつずっと参加してる。色々な出し物もええけど、こうして懐かしい顔に会えるのが一番や」などと話していました。

全体を通じて、労働者と地域の高齢者、子供らが安心して切った表情で一大家族のように溶け合う光景が印象的でした。

力合わせ安心社会を

「健康まつり」多彩な企画で賑わう



→ 健康的な企画に参加者の笑顔が溢れた「第二十八回健康まつり」は十月二十六日、磯路中央公園で(写真は女性や子供による「妖怪体操」)

「区民の健康生活を応援しよう」「力を合わせて安心の医療・福祉を」と十月二十八日(日)、磯路中央公園で「健康まつり」が催されました。

大阪きづがわ医療福祉生活協同組合(港西エリア(磯路))の健康まつり実行委員会が主催。二十八回目。秋晴れの下、十時から十五時まで、多くの区民が訪れ、健康をテーマにした多彩な催しで賑わいました。

◆「医療福祉生協運動に力」と理事長

開会式では実行委員会長の 新さんが「今年のテーマは『つなげよう 健康と平和の輪』。工夫を凝らした色々な「コーナー」や演目を楽しんで下さい」と開会宣言。大阪市立西中学校(西区)の吹奏楽部が『さらば愛しき悲しみたちよ』など四曲を会場の手拍子も得て爽やかに演奏し、オープニングを飾りました。

これを受けて大阪きづがわ医療福祉生活協同組合理事長の 浦生健さんが開会あいさつに立ちました。この中で同理事長は「誰が儲ける訳でもない、利用者の医療・福祉のために利用者自らが力を合わせる事業である医療福祉生協が大阪の下町、木津川エリア(港・大正・西成区)

「開会式で『医療生協運動の発展へ力を合わせよう』と呼びかける浦生理事長」と、オープニングを飾った西中学校吹奏楽部の演奏



で歴史的な合併を遂げて三年。昨年の今頃は赤字で苦しみましたが、徹底的に無駄を省くなどの努力で軌道に乗り、今日を迎えることができました。また平和や被災地支援の活動を、あらゆる民主的な団体との協力・協同で進めてきました」とこれまでの活動を振り返った上で、「これからこの姿勢を貫きながら組合員拡大と増資に力を入れ、三カ年計画の前進と新計画の準備など、一層の事業発展へ力を合わせましょう」と呼びかけました。

◆舞台で演芸、バーサーや模擬店も

このあと舞台では同組合内のサークルや各種

←健康チェックコーナーで血圧測定を受ける男
女⑤と、歯のチェックコーナーで歯科医師・
平尾清司さんから口腔を調べてもらう女性⑥



団体・同好会などによる「健康体操」「民謡」「詩
吟」「太極拳」「和太鼓」「コーラス」「大正夢」
「民謡」などの演芸が次々と登場し、盛んな拍
手を浴びていました。

会場を囲むように同組合各支部やサークル・
諸団体などによる「手芸」「手づくり雑貨」など
のフリーマーケット・バザーや「野菜」「シヤン
ポいなり」「新米・お茶・唐揚げ」「コーヒ」
「ホットドッグ」「焼き芋」「マフィン・ジュー
ス・ちわし寿司」「サンドウィッチ」「はら寿司」
「おでん」「スーパールすくい・ミルク
煎餅」「炊き込み飯」「おにぎり・赤飯」「し

いたけ」「漬物・冷やし飴」「沖縄のお菓子」な
どの模擬店が並び、金券（五十円・百円）によ
る購入を盛んに呼びかけていました。

◆人気の健康・歯科チェック

また、「医療介護相談」「健康チェック」「歯の
チェック」「震災支援ハネル」「煙体験ハウス」
「犬の里親探し」「子どもの昔遊び」「暑さ」な
どのコーナーにも関心が集まり、中でも毎年人
気の「健康チェック」コーナーには開場と同時に
来場者が訪れては血圧・体脂肪率などを測定
してもらってアドバイスを受けてたり減塩みそ
汁を勧められたりする光景が見られ、初登場の



→減塩みそ汁の試食を女性から勧められる男性
⑤と、ばら寿司やおでんが飛ぶように売れて
いた三先支部や弁天支部の模擬店⑥

←舞台では日本民謡⑦や早朝太極拳⑧などのサ
ークルが日頃の練習の成果を次々と披露し、
盛んな拍手を浴びていた



「歯のチェック」コーナーでは夕凧の歯科医
師・平尾清司さんが次々と訪れる人たちの口腔
内を入念にチェックしては真剣な表情で助言し
ていました。

こつした多彩なコーナーやプログラムの最後
には河内音頭、ラジオ体操、抽選会が全員参加
で行なわれ、大きな盛り上がりの中に、倉澤
高志・みなと生協診療所所長の閉会あいさつで
幕を閉じました。

◆「触れ合い楽しい」と四十代男性

参加者に感想を訊きました。
このうち梶内輝之さん（四七）＝磯路＝は妻

「大阪市消防局の協力で設けられた「煙体験」

コーナー①や、初登場の「犬の里親探し」コ

ーナー②も関心を集めていた



や義妹ら四人で参加。「さきほど舞台で民謡に出演していた母(七六)を中心に、みなが組合員として活動している関係で、毎年参加して、もう十回以上になります。今日はこのように(と)「三袋を見せ」四人でお寿司などたくさん食べ物をいただきました。この催しは健康に注意を促されるだけでなく、地域の色々な方と触れ合えること、それに震災支援や犬の里親探しなど毎年新しいコーナーが見られるのも嬉しいです。健康維持のために妻と「ゴルフ」などを楽しんでいます」と話していました。

◆「規則正しい生活」と七十年代女性

また健康チェックコーナーで血圧を測ってもらっていた磯路在住の七十年代女性は「組合員であり、近くに住んでいるので毎年参加し、もう数回になります。血圧は少し高めでしたので、お水をよく飲むようアドバイスされました。朝七時に起きて夜は十一時に寝るなど規則正しい生活を心がけています。この催しは健康のチェックに役立ち、色々な方と交流できるのが楽しいです」と話していました。

◆「よくつがいます」七十年代女性

また歯のチェックを受けていた西村コメさん(七九)「磯路」は朝晩の歯みがきはもちろん



→爽やかな秋空の下、舞台の演芸に拍手を送る参加者①と、近くの介護施設から車椅子で参加した高齢者グループ②

よくつがいをするようにしているので、この歳で自分の歯が十八本あるのはまずまずだと言われました。歯垢が少したまっているが、自分では取れないので、歯科で定期的に取ってもらうようアドバイスもされました。健康のために、朝起きたら手足を動かしたり、よく歩いたりするよう心がけています」と話していました。

爽やかな秋空の下、区内各地から訪れた大勢の老若男女が、舞台に拍手を送ったり、色々なコーナーに声をかけたり、人々の出会いに談笑したりする姿が健康的でした。

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatone.sakura.ne.jp/

東北頑張れ！と高齢者一丸

区老連「さんま祭り」超活況



→秋晴れの下、「東北頑張れ！」と三陸沖の秋刀魚を元気一杯焼き続ける港区老人クラブ連合会会員。十月十二日、八幡屋公園多目的広場

「東北産の秋刀魚を食べる東日本大震災の被災地復興を支援しよう！」と十月十日（日）、港区民まつり会場の八幡屋公園多目的広場の一角で「さんま祭り」が開かれました。港区老人クラブ連合会・区老連が主催、大阪市コミュニティ協会・港区支部委員会、港区老人福祉センター、港区役所が協力。三回目。台風十九号襲来を翌日に控えた爽やかな秋空の下、大勢の来場者が焼きたての秋刀魚に舌鼓を打ちながら、復興途上の東北に熱い想いを寄せました。

◆炭火で焼き上げ、ビールで舌鼓

もうもつと立ち込める白煙。香ばしい匂い。午前十時、港区民まつり開会と同時に、区老連テント前では、岩手県大船渡市の紺のＴシャツに帽子や鉢巻きスタイルの男女会員らが何台もの焼き台を前に並び、三陸沖産の旬の秋刀魚を炭火で次々と焼き上げていきます。それを、やはりＴシャツ姿の女性会員らが受け取っては煎売券など引き換えに来場者へ手渡します。

「五百円で焼き秋刀魚十（飯＋お茶）」という手頃な価格設定も効いて、午前中を中心に、区民まつりが終わる午後三時ごろまで、区老連会

員や一般区民ら約千人が来場。昼食を持ち帰ったり、テント内でビールや「飯を友に身を突いたり、様々の楽しみ方をしていました。

◆「思い伝わり感激した」中学生

また、この催しには昨年に続いて港区の三中学（市岡・港・築港）と大阪学院高の生徒、合わせて約二十名が参加。①おにぎりを作って秋刀魚やお茶とセットにする②来場者に呼びかけ

て義援金を募る一などの奉仕活動をしました。このうち築港中の原幸輝君（三年）と向島英寿君（二年）は一回目の参加。「声を出すのはしんどかったけど募金を入れてもらった時は皆さんの思いが伝わってきて感激しました」「ボンと千円入れてくれた人もいました」「こんな形で復興に協力できて嬉しいです」と話していました。

◆「後期高齢者が力合わせた」と会長

こうした会場の盛況を眺めながら区老連・原田壽会長は「会員の皆さんの奮闘努力や多くの団体・個人・企業のご協力で年々規模が大きくなり、嬉しく思っています。今回は特に、後期高齢者が力を合わせればこれだけのことが出来る、という点を意識して取り組みました。また

大阪市二十四区の区老連合会長を招待するなど、支援をより広げるために新しい試みもしました。十一月十八日には会員二十人で大船渡市を訪れ、今回の収益金を市長に直接手渡す予定です。大震災から三年半が過ぎましたが、東北はまだまだ復興途上にあり、支援が必要です。大阪にも地震や津波がいつ来るか分からない中、自分たち自身の問題として、これからも支援を続けて参りたいと思っています」と話していました。

◆ 企業も協力、支援は佳境に

なお、この「さんま祭り」は〇二年、「被災地復興のためにできることをやる」と区老連合員会で立案。大船渡市に相談したところ、感謝と賛同を得られ、同市役所から「大船渡のさんま」と印刷したTシャツを購入、三陸沖で獲れた秋刀魚八百五十尾^おを仕入れ、収益を寄付しました。昨年は運営全般に改善を加えて「回目」を開催。前年の倍の千二百尾を売り切りました。そして今回は区民まつりとの「コラボレーション」効果もあつて最多の千五百尾を完売。復興支援はいよいよ佳境^{かきよう}に入ってきました。

福祉

地域と溶け合い四十年

笑顔溢れた「海の子まつり」



→ 秋空の下で様々の出会いがあり笑顔が溢れた「第三十九回海の子まつり」は十月二十五日、池島の児童養護施設「海の子学園入舟寮」で

「児童養護施設のことを地域の人たちに知ってもらおう」と十月二十五日(土)、「海の子まつり」が池島三丁自の「海の子学園・入舟寮^{いづなせ}」で開催されました。三十九回目。朝十時から午後一時まで、園生、職員、保護者、OBら関係者に加えて地域の人々が多数訪れました。

● 食べ物や遊びが一杯

爽やかな秋空の下、高揚感のあるBGMが流れ、「安いよ」「うまいよ」「おだんごいかがですか」「あと少しですよ」など元気な呼び声を響かせる園生たち。自分たちで準備したカレーライス、ラーメン、クッキー、洋食焼き、フランクフルト、たこ焼き、団子、ミルク煎餅^{せんべい}、ジュースなどの飲食模擬店や「千本釣り」「輪投げ」「籤引き^{くじび}」などの遊びコーナーに来場者が次々と引き寄せられていきます。

中央の縁台^{えんたい}や屋内休憩所で飲食する家族連れの表情は自宅にいるかのようにリラックス。高島屋労働組合大阪支部も協力したバザー会場では衣類・食器本など超安値の品々に人だかりができ、海の子学園の華道クラブ児童・職員による「華展^か」では静かに生け花を鑑賞する姿が

見られました。また、池島小学校、港中学校の先生たちやPTA関係者、近隣の町会関係者や商店主らも次々と訪れ、園内はさながら地域の社交場。四十年に及び、こうした開かれた活動の積み重ねが、この施設をすっかり地域と溶け合わせたように感じられました。

●「表情が染みうつ地域男性」

参加者に感想を訊きました。

「このうち小学一年生女児と二歳男児と一緒に縁台で休憩していた男性(四〇)は「池島のマンションに住んで三年になりますが、初めての参加です。通りがかりに『何か賑やかにやってみな』と誘われるようにして入りましたが、皆さんの表情が本心に生き生きと楽しそうなのでうれしかったです。この施設から池島小学校に通う子供たちの顔を知りたいと思って、地域の交流の場にもなっていると感じられました。この施設は一度、園庭を開放されるのは、施設のことを地域の方に知ってもらい、親しみを持ってもらいたい点で、とても意義があることだと思います」と話していました。

●「子供から教えられる里親女性」

また、縁台で友人と洋食焼きを食べていたのは野中和子さん(四二)＝中央区。「週末里親として、この施設の小学四年生の男の子を二歳の時から七年間、月一回ほどの週末(土・日)と春・夏・冬休みに預かっています。また、それと重ならない日に養育里親もしています。そして、そんな人たちがこの春『すまいるサポートクラブ』というグループを立ち上げ、色々なボランティア活動に参加していますが、今日のこのおまつりでもお手伝いをさせて頂いています。子供とは特に意識することなく自然な形で接してきましたが、ふれあいが少なくなっている今の世の中で、こちらが教えるというよりも、感謝の気持ちを率直に表わすなどの点で、むしろこうした施設で礼儀正しく健康的に育てられている子供たちから教えられるこの方が多いです。このおまつりは、色々な楽しい企画を通じて地域の方々に児童養護施設のことを知ってもらい、親しんでもらえる、とても素晴らしいイベントだと思います」と話していました。

●「地域に開放は大切」と里親男性

また、縁台のそばで男の子が遊ぶ中、口づ

たのは沢村卓哉さん(四二)＝大東市。「子供がいないので、妻と相談して一年前からこの小学一年生の週末里親をしています。月二回の週末(土・日)と、春・夏・冬休みに預かり、一緒に生活しています。この施設での集団生活で挨拶などの躰がきちんと身に着いていることが感じられ、こちらが教えられることが多いです。また仕事から帰って子供の顔を見ると、疲れが吹き飛びますね。マスコミ報道などで、こうした施設に悪いイメージを持たれる方も多い中、こうした年一回、施設を開放して多くの人たちに親しんでもらうことは、とても大切なことだと思います」と話していました。

●「一七八歳が集団生活」

同施設は一九四九(昭和二十四)年、解労働者の子弟を養護する「海の子の家」として設立。現在は児童福祉法に基づき児童養護施設として社会福祉法人「海の子学園」が運営。保護者の病気や離婚など様々な事情から家庭で生活できない一七八歳の子供たち(定員百八人が、保育士、指導員、看護師、心理士、栄養士、調理員らに見守られながら集団生活を送っています。

食べた走った触れ合った！

「こちマラ」九百人がラストラン



→秋晴れの強い日差しの下を次々と笑顔でスタートする「第五回大阪「こちそうマラソン」出場ランナー」十月十九日十一時頃、入舟公園

「不況の中でも町の温かさと商店街の心意気を感じてもらおう」と、交通法規を守って歩道を走行するユニークなスポーツ行事「大阪」こちそうマラソンが十月十九日、港此花西区を舞台に行なわれ、過去最多の九百人の参加で盛り上がりました。「目には、おなかに、心にも「こちそう」をコンセプトに、大阪「こちそうマラソン」実行委員会が主催、大阪マラソン組織委員会と八幡屋商店街振興組合が共催。五回目で最終回。

◆演奏やコーラスでムード高め

晴れ渡った秋空の下、メイン会場である入舟公園（八幡屋）には、そよ風のオレンジ色Tシャツ姿のランナーたちが集結。各選手のゼッケンには「完食！」楽しく完歩！「食い尽くす！」など思い思いのメッセージが書き込まれ、動物や怪物などの仮装もちらほら。

八幡屋小学校の児童楽団「八幡屋キッズバンド」の軽快なマーチ演奏や、区民合唱団による笑顔一杯のコーラスなどが祝賀ムードを高める中、午前十一時から三十数人ずつに分かれた二十数組が、男女司会者（市岡の数井寿一さんと八幡屋の女性）のリードで、「いったんこち

←開会式でムードを高めた八幡屋キッズバンドの演奏（上）と区民合唱団のコーラス（下）



す！」と腕を振り上げながら、二分半間隔で次々とゲートを潜り抜けて行きました。

◆しっかりと食べて完走めざす

出発を待っていた西田卓司さん（三三）岸和田、小浜守秀さん（三七）大正区から男女五人は「ゆづゆ美波速」「あゆみ作業所」など港区の障害者作業所などで働く人たちのグループ。二回目の参加です。目標はルールを守って完食・完走「フルマラソンの経験あり。一杯食べて走り抜きたい」「少しはトレーニングもしてき

ましたが、長距離は初めてなので不安もありました。」「などと話しながら盛り上がりつつありました。同じく出発を待っていた小林永美さんら男女

七人は「みんなのMAEMUKー駅伝2014」

(癌などの病気を持つ人たちを励ますために
五月二十四日〜十二月二十八日に約九百人が沖
縄から北海道まで全国各地をリレーしながら一
本の縄を繋いでいく運動)に参加する人たちの
グループ。「しっかりと食べて、走って、この運
動をアピールしたい」と張り切っていました。

◆ルール守って観光も

夏が舞い戻ったような強い日差しを浴びなが
ら、選手たちは、八幡屋から田中→港晴→築港
→海岸通→此花区→西区→南市岡→市岡→三先
→夕丘→池島を経て同公園をゴールとする約一



→パワフルな司会でランナーを元気づけた数井
寿一さんと八幡屋の女性①と、出発前に盛り
上がる福祉施設スタッフら五人グループ②

十五キロのコースを、制限時間(五時間)内で走
りました。

「ユークだったのは、「信号を守る」「歩行者
を優先する」「商店街は走らない」「横に広から
ない」などの走行ルールを守り、大阪湾タイヤ
モンドポイント・海遊館・天保山渡船・安治川隧
道・土佐稲荷神社・京セラドーム大阪などの
観光ポイントを眺め、八幡屋商店街・港中央市
場・八幡屋市場・港商店街・春日出商店街・九
条キトラ商店街・繁栄商店街・食鮮館カーム
などで補給食を食べながら、のんびりと非計
時で走ったこと。コースの要所では多くのボラ
ンティアが受付・誘導・飲食提供・救護などに
活躍。沿道では道行く人たちが「頑張れ!」「し
っかり!」と声援を送っていました。

◆八幡屋商店街に長蛇の列

このうち最初のエイド(補給場所)である八
幡屋商店街では、次々と入って来る選手たちに
ボランティアが、たこ焼き、わらび餅、稲荷寿
司、饅頭、どら焼き、バナナ、大粒の種なし
ブドウ、お茶などをふるまい、それらに手を伸
ばすランナーたちで長蛇の列ができました。

←出発の前に張り切る「みんなのMAEMUK
I 駅伝」グループ①と、八幡屋商店街でたこ
焼きなどに手を伸ばすランナーたち②



また同商店街のアーケード下では、吹田市江
坂の沖縄料理店「うるま島」のレギュラー演奏ク
ループ「ヨハネーズ」が特別出演。三線やギター
の伴奏で沖縄民謡などをエネルギーギッシュに歌い
続け、通過するランナーを励ましていました。

◆繁栄商店街も手厚くもてなし

一方、最終盤のエイドである南市岡の繁栄商
店街では、地域の守り神である「韋駄天尊」像
をかつぎ出してボランティア数十人が待機。午
後二時過ぎに現われた先頭ランナーを盛大な拍
手と笑顔で迎え、小山お好み焼き店のお好み焼
き、伊勢漬物店の漬物、ル・コパンのパン、難波

みかん すいか かき ぶどう なし
果物店の蜜柑・西瓜・柿・葡萄・梨、井上豆腐店の
手づくり豆腐、きぬやの手打ちうどん、ポラン
ティア手製の「愛情一杯茶」など、同商店街自慢
の品々で手厚くもてなしていました。

◆誘導ボランティアの心意気

路上ボランティアのつち、コース序盤の八幡
屋交差点で「信号が赤ですので止まって下さ
い」などと誘導役を果たしながらランナーを励
ましていたのは掛布章子さん(四九)・八幡屋。
「これまでボランティアをしていた人に誘われ
て初めて参加しました。気温が上がって心配し
ていましたが、ランナーの方たちは元気一杯で



→八幡屋交差点で信号待ちの走者と交流するポ
ランティア掛布章子さん(左⑤)と、繁栄商店
街で難波果物店の柿などを選ぶ男性走者ら(⑥)

楽しそう。こちらもパワーをもらいました。女
性ランナーから「あめ」をもらったりしてふ
れあいを感じることもでき、とても幸せです。
今年で最後ということですが、機会があればま
た参加したいです」と話していました。

またコース終盤のみなど通・市岡付近で誘導
に当たりながら「もうちょつとや、頑張れー」
とランナーを励ましていたのは本城繁さん
(七三)・市岡。「知人に頼まれて、お役に立てる
ならと初めて参加しました。ランナーからは『食
べ物はどれもおいしかった』、地域の人たちから
は『苦労さまで』」などと声をかけて頂き、
心のふれあい、地域のつながりを感じています」
と話していました。

◆トップ集団に港区の女性も

午後一時半、気温が最高に達する中、盛大な
拍手と歓声に迎えられ、男性一人がトップを切
ってゴール。続いて三人のランナーが手をつな
いで同時に三位でゴール。その中の一人、坂井
利佳さん(三九)・夕凪は「これまで実行委員
会に入っていた父(七十代)に誘われて、父と
一緒に初めて参加しました。父はまだ走ってい

「盛大な拍手に迎えられて次々ゴールテープを
切るランナー⑤と、三人が手をつないで三位
で同時ゴールした坂井利佳さん(右端)ら⑥



ます(笑)。家の近くを七・八キロ、週三回ほど走
ってトレーニングしてきました。『よく食べて完
走』が目標でしたが、バツナなどおいしいも
のをたくさん食べられ、子供二人(田中小四年
男児と二年男児)の応援を受け、最後は初対面
の男性ランナーお二人(どちらも大阪府)と手
をつないでゴールでき、とてもいい気持ちです。
今年で最後ということですが、もし再開された
ら、また走りたいです」と話していました。

また二十番目くらいにゴールした佐藤円さ
ん(五二)・和歌山市は「三回目の参加です。
週一回、五キロほど走って準備し、友人と二人で

参加しましたが、二人はタイムを意識しながら走ったので、体の弱い私は引く張られてしんどかったです。「うちらつの中では素麺すめんがおいしく暑かったのでドリンク類の提供も嬉しかったですね。ファイナル（最終回）は残念。再開されたらまた走りたいです」と話していました。

◆「地域色・全国色・国際色にあふれ

なお実行委員会事務局によると、このイベントにはインターネットなどを通じて過去最高の九四二人が参加（参加料五千円）。地域別では最多の大府府をはじめ、兵庫・京都・奈良・和歌山・東京・神奈川などの都府県や、中国・韓国・アメリカなど外国からも参加がありました。またボランティアは八百人超にのぼり、港区民を中心に、西区民、此花区民、さらには中国・韓国・カンボジアなど外国からの留学生も活躍。また区内の公衆浴場は今回も参加者に半額以下（三百円）で入浴サービスを実施。全体として地域色・全国色・国際色あふれる催しとなりました。

◆「ファイナル」に実行委員は感動深く

この「大阪いちごマラソン」は、二〇一〇年

「東京夢舞マラソン」をヒントに港区内の三商店街（八幡屋・夕凼・繁栄）の商店主らが企画。実行委員会を立ち上げ、「大阪あきない祭り」の一環としてスタート。その後、市民や参加者の声を生かしながら続け、当初の予定通り、今回で最終回となりました。

第一回から準備・運営を担ってきた人たちに訊きました。

「このうち実行委員長の角正基さん（七二）＝大阪市商店会総連盟理事長、港区商店会連盟理事長＝は「イベント業者の手を借りず、運営費も参加費だけで賄い、全て手づくりで運営してきましたが、回を重ねるごとに知名度がアップし、嬉しい悲鳴を上げるようになりました。受付や荷物の管理、一人一品は必ず当たるようにとの『馳走ちしゅうの量なり、大変といえは大変でしたが、そうしたことを通じてチームの力を実感しました。また毎回一番心配だったのは風。渡し船が欠航するとコース変更を迫られるからですが、お陰で一度もそれは起こりませんでした。第一回を終えた時にホッと、心から感動したのを今も覚えています。今回でファイナルです

が、引き継いでやるつもりで地域や人たちが現われれば、私たちが蓄積したノウハウをぜひ生かしてほしいと願っています」。

また事務局として受付作業などを担ってきた伊藤雄二さん（六〇）＝「八幡屋商店街」光文堂店主＝は「今回は「丸のあい」も賑わいを、商店街で飲食を楽しんでもらう『八幡屋ハル』というイベントに初めて取り組み、大好評を頂いたことが、最後を飾る素晴らしい思い出になりました。毎年、家族ぐるみでお世話させてもらいましたが、とりあえずはファイナルということでホッとします（笑）」。

同じく事務局だった近藤洋史さん（五八）＝「繁栄商店街振興組合副理事長」＝は「大阪マラソンのコースに港区を含めることは残念ながら叶いませんでしたが、それなら独自に」と立ち上げたのが「うちらつマラソン」。人の繋がり、地域の賑わいを作ることを第一に、結果として経済効果があればなお良いというスタンスで運営し、一定の答えを出すことができました。引き継いでやりたいという人たちがあれば、喜んでノウハウをお伝えしたい」と話していました。

迫方の風景画大作

川島恵美子さん作品展にぎわう



→ 絵画について語り合う川島恵美子さん(右)や来場者11月12日、みなと通の画廊&アートエ「ガレリア・リバリア」で

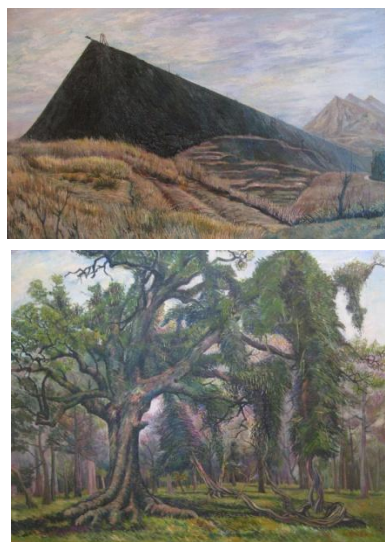
平和の願いをキャンバスに込め、リアリズム(写実主義)を貫いて絵画人生を送ってきた八幡屋在住の画家・川島恵美子さん(八四)が、みなと通の画廊&アートエ「ガレリア・リバリア」で十月七日〜十八日、五十一回目となる作品展を開催。区内外から訪れた多くの人々が、風景画の大作などに見入っていました。

出品されたのは、これまでに国内外で描いた風景画の大作十点をはじめ、安曇野の風景を描いた水彩画「ブルジアの教会を描いた銅版画(エッチング)」など新旧合わせて二十数点。

◆ 労働者の気概を示した「ボタ山」

このうち「ボタ山」(八〇号、油彩)は一九六五年に北九州市直方(のちた)の風景を描いた大作。絵の恩師として川島さんが最も尊敬していた吉田利次氏らと現地へ出かけ、描いたものです。「まだ労働運動などに活気のあった当時の世相が、鈍行列車での楽しい旅の思い出と共によみがえります」と川島さん。真っ黒いボタ(石炭)を掘る際にまじってゐる若石や質の悪い(炭塊)の山が、戦後労使の一大決戦の場であった三池闘争(一九五九〜六〇年)の終結後もなお炭鉱労働

「北九州市直方のボタ山を描いた『ボタ山』(上)と、奈良公園のいちじくを描いた『樹』(下)



者の気概を誇示するかのようにつ、どんよりした夕刻の曇り空に高々と聳える姿が印象的です。

◆ 生命力感じさせる「樹」

また「樹」(八〇号、油彩)は一九六五年、奈良公園のいちじくを描いた大作。まるで動物のようにつねつねと曲がり絡まり合う幹や枝や根が、溢れんばかりの生命力を感じさせます。が、そんな光景も、再訪した十年ほど前には「危険だから伐採されてなくなっていた」ことで、こうした自然の力強い光景が年々失われていくのは残念でなりません」と川島さんは嘆きます。

因みにこれら二点は、リアリズム美術展として

て歴史のある「集團造形展」第一回に出展された記念すべき作品で、この九月二十日～十月六日に天王寺区の大阪市立美術館で開かれた第五十回展にも新作三点と共に出品されました。

◆貴重な中国風景「雪の棚田」



「茨木市の晩秋の田野を描いた『雪の棚田』

「雪の棚田」(二〇〇号、油彩)は一九八七年に大阪府茨木市の郊外を描いた大作。お墓参りに訪れた霊園から少し足を伸ばした所に思いがけなく開けた田園風景でした。まだ十一月なのに雪が降り始め、見る間に積もったのを覚えていきます。今ではこの辺は住宅地に開発され、こんな風景は見られませんが「川島さん、雪に埋もれゆく田のまだら模様や、遠い灰色の峰の重なりから、晩秋の冷気が観る者に伝わってきます。」

◆温かかった「昆明の麦畑」

「昆明の麦畑」(二二〇号、油彩)は一九八二年、中国雲南省・昆明の麦畑を描いた大作。「麦の赤茶が温かく、畑の道を歩いていた野良仕事帰りの親子の姿を見て、こんな所で育てばきつとい子になるだろうと思った」と川島さん。しかし再訪した一九九八年には高速道路が通り、畑は安っぽい赤や青の建物に変わって、「急速な観光化に悲しくなった」そうです。

◆厳かな空気を「アッシジの砦」

「アッシジの砦」(二〇〇号、油彩)は一九九五年、イタリア中部の古都・アッシジの風景を描いた二連の大作の一つ。抑えた色彩の屋根

「中国・昆明の麦畑を描いた『昆明の麦畑』①と、イタリアの古都を描いた『アッシジの砦』②



や樹木の重なり、周囲から隔絶したように聳え立つ高台に、フランチエス「修道院を擁する宗教的で厳かな町の空気が窺えます。」

◆平和願い、最後の一点目描して

そして、こうした出品作にまつ話をまとめるかのように川島さんは「描く時にはそこに暮らす人々を思い、祈りながら筆を動かしています。多くの方のお力添えで好きな絵を続けられたことに感謝しつつ、これからも写実主義を貫き、平和を願い、画家として最後の一点めどして努力を続けたいと思っています」と話していました。

川島恵美子さん略歴 一九二〇年兵庫県生まれ。

四八年に長谷川常弘氏から油絵の手解き。以後、大泉米吉、吉田利次、山本八三(銅版画)の各氏に師事。関西美術家平和会議、リアリズム美術家集団(のち集団造形)、日本美術会に入会。家事子育てをこなし、社会運動にも関わりながら写実主義を追求。平和美術展、日本アンデパンダン展などに出品。個展は六一年に第一回、六四年から毎年開催。六六年から海外スウェッチ。〇五、一二年に画集。一一年に画廊開設。一四年に五十回を迎えた「集団造形展」にただ一人初回から出品を続ける。

ガレリア・リバリア 川島恵美子さんが①絵画人生の集大成②今後の活動の拠点③地域への感謝の表現④次世代への橋渡しの場として二〇一一年十二月にオープン。「リバリア」はスペイン語で「川」を意味。一階は常設展、二階はアトリエ。月々金曜十一〜十六時開館。入場無料。三先一・三三二八(みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐ)、TEL・FAX 七五〇二一四二八八。

美術

描く・飲む・観る楽しさ

川島さんから学ぶ人たちが作品展



→ 生き生きとした風景画などが好評だった「満天星展」で、絵について語り合う出品者や来場者
11月十九日、三先のガレリア・リバリアで

生き生きとした風景画などが好評でした。十月後半に三先の画廊「ガレリア・リバリア」で開かれた満天星作品展には多くの人々が訪れ、描く喜び、観る楽しさを共有しました。

「満天星」は平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた八幡屋の川島恵美子さん(八四)から西区や港区で絵画を学んできた人たちのグループで毎年作品展を開催。今回は風景や植物などを題材にした油彩・水彩・パステルなど四十数点を出品。写実主義を基調にした確かなデッサン力と個性溢れる筆致が印象的でした。

◆「試行錯誤が楽しい」

このうち『花々』など植物を題材にしたパステル画八点を出品した大岩芳枝さん(七七)は「東大阪市」は川島さん主宰の教室に通ったのをきっかけに入会して二十数年。途中、夫の仕事で中国へ渡った十数年間も怠りなく描き続け、これまでに手掛けた作品は大小百点超。「油彩風景画を中心に描いてきましたが、最近は花のパステル画に集中しています。中国で、油彩を珍しがる現地の人たちにワイワイと囲まれながらその土地の風景を描いたのはとてもいい経験で

←大岩芳枝さんのパステル画『花々』①と三浦章子さんのパステル画『初秋（松川）』②



した。先生の指導を受け、試行錯誤もしながら仕上げていく過程が楽しく、気の合った人たちと好きな絵を続けられる幸せを感じています。

◆「満足するよはなご」

また初秋の白馬岳を題材にしたパステル画『初秋（松川）』など十点を出品した三浦章子さん（七二）＝住吉区＝は五十代だった会社員時代に川島さんの作品に触れて「こんな絵が描きたい」と入会。「絵は家の中でも外でも描ける」「退職後も楽しめる」と続けてきました。「白馬へは毎年初秋に訪れ、色んな角度から描いています。水彩でスケッチし、帰ってからパステルで大きく仕上げます。時間をかけてじっくり描

き上げるタイプですが、先生からアドバイスを頂き、さらに良くなっていく過程が楽しいです。でもそのついで目標が高くなり、立体感や遠近感など、なかなか満足することはありません。

◆「過程」が完成の喜び

またアラスカの自然を題材にしたパステル画『アラスカの秋』など四点を出品した仲本恭子さん（七二）＝枚方市＝は病院勤務時代に「退職後も楽しめる趣味を」と入会して約二十年。

「アラスカは秋が綺麗（きれい）と思って一昨年訪れました。永い年月をかけて育った針葉樹林の鬱蒼（うっそう）とした感じ、水面の感触や浮草の影、透明で冷えた空気感、遥かな山々の遠近感などを表現する



→仲本恭子さんのパステル画『アラスカの秋』①と森隆子さんのパステル画『たたずむ』②

←大村康子さんの油彩画『湖秋（信州）』①と吉田雅子さんの油彩画『春を待つ美麻』②



のがとても難しかったです。制作過程はけっこう苦しみますが、指導を受けて出来上がった時の喜びは格別です。

（この他、会場には森隆子さんのパステル画『たたずむ』、大村康子さんの油彩画『湖秋（信州）』、吉田雅子さんの油彩画『春を待つ美麻』、高橋あけみさんの油彩画『屋久杉』などが展示されていました。



→高橋あけみさんの油彩画『屋久杉』二点

懐かしい歌で心身爽快

いちよう学園同窓会が歌声喫茶



→懐かしい歌をたっぷり歌えて大好評を博した
港区いちよう学園同窓会の『歌声喫茶』二十
月一日午後、港近隣センターで

「よく知っている歌を次から次へと歌えて大満足」「身も心も爽やかにまりました」。十月一日、港近隣センターで開かれた港区いちよう学園同窓会主催の「歌声喫茶」には同学園の卒業生約九十人が参加、童謡・唱歌など懐かしい歌の数々がホール一杯に響き渡りました。

「いちよう学園」は

「いちよう学園」とは概ね六十歳以上の大阪市民が毎年五〜六月の数回、経済・消費・健康・社会などをテーマに、高齢者の生活に役立つ一般的な知識を学ぶ講座の名称。昭和五十年代に各区の老人福祉センター創設に合わせて国の補助でスタート。その後、大阪市が継承しましたが、「市政改革」の煽り（おおほり）で各老人福祉センターの自主事業に移行。運営上の厳しさから規模を縮小したり廃止したりする区が続出する中、港区では学園も同窓会も活発に活動を続けています。

♪「楽しい時間」の主催者

午後一時、キーボードが奏する「ピピピピッピ」という模擬時報に大笑い（わら）が起る中で開会式がスタート。港区いちよう学園同窓会・平澤洋征会長代理（七〇）は八幡屋（や）が「同窓会

「主催者を代表して開会挨拶をする港区いちよう学園同窓会・平澤洋征会長代理（七〇）と港区老人福祉センター・宇津原正章館長（下）」



として初めて企画したが、こんなに大勢の参加を得て感謝・感激。今日は一人ひとりの元氣と元氣を掛け合わせてパワー溢れる楽しい時間に。また、同学園を運営する港区老人福祉センター（夕田）の宇津原正章館長は、先に記した同学園の歴史を振り返りながら、「港区のいちよう学園が活発なのは、これを守り育てていくということ。皆さんの熱意があるから。今日は思い切りの口を開けて最後まで楽しんで」と呼びかけました。

♪この道のバネランがリード

司会を担ったのは「大阪童謡くらぶ」代表の若木正実さん。ピアノ伴奏は「グランドピアノの天使」（こと）ノ瀬美貴子さん、キーボード伴

奏は「鍵盤の魔術師」と樋上久子さん。いずれも関西の歌声運動をリードする、この道のベテランです。

若木さんは、昔の港区の市電を話題に上らせたり、腕や肩を回す準備運動を指導したり、「しあわせなら手をたたこう」に合わせた手拍手の練習を指導したりしながら、参加者の心身をリラックスさせたあと、オリジナル歌集（五十曲掲載）をもとに、自らの選曲と参加者のリクエストを織り交ぜながら、ほとんど休むことなく十数曲をリードしました。曲目は『森の熊さん』『もみじ』『里の秋』『朧月夜』『ウミ』『われは海の子』『朝はづから』『みかんの花咲く丘』『フキー』『ゴンドラの唄』『花言葉の歌』『おも



→笑わせたり、乗せたり、絶妙のリードで参加者の歌唱を盛り上げた司会の若木正実さん

ちやのチャチャチャ』『四季の歌』『蘇州夜曲』『月の沙漠』『高原列車は行く』等々。

♪ 笑わせたり、乗せたり

歌唱の合間にも若木さんは「途中で疲れて寝てもいいけど、軒はリズムに合わせて下さい」などと笑わせたり、「皆さん素晴らしい、レベルが高い」と気分を乗せたり、『里の秋』は昭和十八年に戦地の父親を想う歌として作られ、戦後は戦地から引き揚げる父親を迎える歌に生まれ変わりました『ゴンドラの唄』は映画『生

きる』で名優志村喬さんがブランコに揺られながら歌つシーンが印象的でした「キーボードはどんな音でも出せます。人の声も。ほんまです」など歌や楽器にまつわるエピソードを紹介したりと参加者の気持ちをひとつときも歌から逸らせない配慮と工夫を見せました。

また伴奏では、月下で雪が煌めくかのような美しいピアノの調べと、大波のように滑らかに連続するキーボードの電子音が、息もピッタリに溶け合い、参加者の発声をよりスムーズに。

また、司会者が曲を指名するや間髪入れずに始まるタイミングの心地よい、間奏をほとんど入

←息の合った演奏で歌唱を支えたピアノの二ノ瀬美貴子さん①とキーボード樋上久子さん②



れない快適なスピード感も印象的でした。

♪ 「気持ちよく歌える」に参加者

休憩時間に参加者の感想を記しました。
友人と連れ立って来たという横川豊子さん（ハニー弁天）は「十年ほど前にいちよう学園を卒業しました。健康のため、できるだけ外出するようにしています。今日はうしてみんなが集まって、しかも無料でたくさん曲を歌うことができてとても楽しいです。間奏なしで次々と歌えるのが気持ちいいですね。特に童謡が好きで、カフオケでも最初に歌います。これからも続けてほしいです」。

最前列で歌っていた日高孝司さん（七五）は「港晴」は「いちよう学園は二十年以上前に卒業

しました。老人福祉センターの歌謡クラブに入っています。特に『高原列車は行く』のような明るい歌、北島三郎の『根っこ』のような力強い演歌が好きです。こんな楽しい催しはぜひまた開いてほしいですね」と話していました。

休憩時間にはまた、伴奏者一人による『小さな喫茶店』の演奏があり、ピアノとキーボードの「ラボレーション」による軽快で切なげなタンゴの調べに大きな拍手が送られました。

♪後半も集中途切れず

休憩後の後半も、前半と同様、司会者の選曲と参加者のリクエストをミックスしながら、十数曲が次々と歌い継がれました。曲目は『ちいさい秋みつけた』『浜辺の歌』『おお牧場はみどり』『花』『あぞみの歌』『旅の夜風』『うぐいす』『学生時代』『トロイカ』『花は咲く』『さげば』『手のひらを太陽に』『うぐいすも夢を』『かあさんの歌』『故郷』等々。

そしてやはり歌の会「若木さんは『学生時代』はハギー葉山さんの青山学院時代の思い出をもっと作られました、誰か青山学院卒業の方は、」と笑われたり、「もう隣の人ならいい

閉会挨拶する港区いちよう学園同窓会・佐久間みち江総務部長」と拍手で応える参加者



つでもいいくらいに乗ってきましたね。歌のオリーブが出来ますよ。さあ遠慮しないでどんどんいさまじょう」と気分を高揚させたり、「労働運動や学生運動が華やかだった頃、当時の歌声喫茶ではロシア民謡を歌って意気を上げたものですが、『トロイカ』はその定番でした」などと歌にまつわるエピソードを披露したりと歌への集中をひとつきも途切れさせませんでした。そうしてリードを受けて、参加者の中には歌にくわわして頭や体を左右に揺らす人が次第に増え、特に東北の被災地への思いを込めた『花は咲く』や最後の『故郷』の合唱では一体感に思わず目頭を押さえる姿も見られました。

♪「いざからもう定期的に」に参加者

「ううう」時間になぶ歌の終曲は終了。閉会式では参加者を代表して港区いちよう学園同窓会・佐久間みち江総務部長（ハ〇）＝田中＝が昔を思い出しながら沢山の歌をとても気持ちよく歌えました」と司会者・伴奏者に感謝。「皆さんどうでしたか、良かったですか？」と会場に問いかけると、盛大な拍手が返ってきました。高揚した気分のままに引き揚げる参加者の一人、谷口すみ子さん（五七）＝八幡屋＝は、「大満足です。特に最後の『故郷』が良かったですね。歌うことが大好きで、南朝コーポのコーラスグループで毎週金曜日に練習していますが、こんな（規模の大きな）イベントもこれから定期的に開いてほしいです」と話していました。

また長時間の司会を務めた若木さんは「司会は料理と同じで、参加者の人数や年齢層や男女比率や気分などを見ながら、時にはこちらのペースでどんどん選曲するなどして、臨機応変に進めることが大切です。港区の皆さんはとてもよく乗って下さって、いちからもう気持ちよく司会できました」と話していました。

秋空に爽やか演奏

ランチタイムコンサート快調



→ 秋空の下で音大生の爽やかな演奏を区民が楽しんだ「八幡屋公園ランチタイムコンサート」
 〓十月二十六日、八幡屋公園芝生広場で

秋空の下で音大生の演奏と区民の歌声が響き合い、「八幡屋公園」ランチタイム「コンサート」が十月二十六日(日)に同公園芝生広場で催され区民ら約三百人が参加しました。スポーツパーク八幡屋活性化グループの主催で五回目。

♪ 音大生が『赤とんぼ』を

演奏者は大阪音楽大学の西 真一樹さん(パカッション)と土池美沙さん(トランペット)と佐藤悠己さん(ピアノ)。佐藤さんは初出演。演奏曲のうち、よく知られた『赤とんぼ』や『涙そうそう』『少年時代』には自然と唱和が起り、最新の映画主題曲『let it go』やビリーバンバン『また君に恋してる』には美しい旋律に耳を澄ます姿が見られました。

終盤には「激しい曲も」(高野男性)とのリクエストで会場の手拍子も力強く『ルパン三世』さらにアンコール曲『故郷』が盛大な唱和の中で演奏され、一体感が最高潮に達する中、三十分間のコンサートはお開きとなりました。

♪ 『選曲も演奏もいい』と参加者

美しい声で『故郷』を歌っていた六十代女性(夕四)は「たまたま通りがかって初めて参加し

→ 演奏する音大生トリオ①と唱和する聴衆②



ました。いいお天気の下で懐かしい曲を聴けて歌えて、本当に気持ち良かったです。」

田中から参加した六十代男性は「毎回来いますが、新旧を組み合わせた選曲もいいし、音大生の演奏も初々しく、だんだんと上達しているのも分かります」と話していました。

因みに、演奏者のうち西さんは港区生まれで港晴小→築港中→港高を卒業し、音大では打楽器を専攻、将来は港高で音楽教師を志望とか。

♪ 次回は来年春

なお同「コンサート」は昨秋スタート。開催は春一回、秋一回で各十二時十五分。「無料でいい音楽が楽しめる」との口コミで回を追って聴衆の裾野が広がっています。次回は来年春。

演劇ガイド

●「いんぐわとば」一座『新町橋の夕霧』 「感

動はよきふれあいから」と庶民の喜怒哀楽を世相風刺も込めて演じ続ける市民劇団の第三十六回公演。お馴染み「七軒長屋物語」の番外編「新版・上方平次捕物控」の新作として新進女流作家・島村田花さんが脚本、あながいおまる座長が演出。大坂・下町の尊々長屋を舞台に、悪意と正義、推理と人情、涙と笑いが交錯する。十一月二十九日(土)十四時、三十日(日)十三時、十五時の三回公演。前売千八百円、当日二千五百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR弁天町駅から徒歩四三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。 ☎六五八一・〇六八四、チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四一・三九へ。

●弁天町ORC200生涯学習センター『さよなら弁太』頭々お船の中でのいい湯だな』

出演者募集 「夏休み(こどもOH)笑い塾」(前号五六頁)で大好評だった子供たちによる子供たちのための喜劇トレーニング&発表の第八弾。大阪市出身の放送作家・砂川一成さんが一人を

笑わせ、自分も元気」。「喜劇はチームワークとコミュニケーション」と喜劇のコツを優しく伝授。今回は阪神淡路大震災の実話が題材。十一月八日(土)、十四日(日)、二十一日(日)、二十三日(火祝)の十四時半〜十八時と十七日(土)十〜十八時の全五回(最終回はリハーサルと発表。参加費は子供一人八百円(保険・資料代)。対象は小学生以上。先着三十人。定員に達し次第締切。 ☎六五七七・一四二〇。

ライブ情報

●ハ幡屋出身のロックドフマー 桐田勝治さん

所属バンド「ガゴイル」の十六枚目のアルバム『解識』(「過客」太陽「直撃」など十一曲好評発売中。三、四〇円。 ☎〇三・三三八一・九一八〇ファーストセル▽十一月三日(水)四日(木)十九時から神戸チキンジョージで、一月二十日(金)十九時から京都劇場で開催の所属バンド「ザ・クロマニヨンズ」のツアーライブ「ガンボインフェルノ2014・2015」に出演予定。 ☎六三三七・四四〇〇サウンドクリエーター。

●三先のフォーク歌手・ペドロさん 毎月第一・

三木曜 千時ザセラー(中央区西心斎橋一・一七・二三新スミヤビル地下、 ☎六二二一・六四三七)▽毎月第一 火曜 千時半 ロージー(中央区西心斎橋一・九・五 宝三ツ寺会館地下一階、 ☎六二二三・三九九九)▽毎月第三 火曜二十時 かつおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五 宗右衛門町センタービル 階、 ☎〇九〇・五八八・七〇一五)。

●市岡元町在住の音楽ユニット「花☆キャラ」

十月十一日に北区で開催された『満月まつり』n O S A K A』に出演。「HELP 辺野古」をテーマに海勢頭豊さんらと「めどう 宝」ちゅうら海に杭一本打たせん」このメッセージを発した▽ホームページは港新聞からリンク。



→花☆キャラの演奏風景

なつかし ひつたし いまむかし

写真で旅する港区あの時

▼第二室戸台風（一九六一年九月）



→ 浸水した八幡屋交差点北側の様子（左が港側）

第二室戸台風は昭和期の港区を五番目に襲った大きな台風でした。昭和三十八（一九六二）年九月十八日九時すぎ、室戸岬に上陸時の中心

気圧九二・五ヘクトパスカル、最大風速六八・七メートル、最大瞬間風速八四・五メートルを超はいても記録的。十三時すぎ、尼崎・西宮間に再上陸後も勢力は衰えず、洲本・大阪・京都などで観測史上最低気圧を記録し、暴風・高潮が発生。大阪湾岸に大被害をもたらしました。

◆地盤沈下で大きな高潮被害

特に高潮はOPP（大阪湾一帯基準面）から四・二メートルに達し、港区は全区域が浸水。シエン台風（昭和十五年）後に大阪では総延長二四キロの防潮堤が造られていましたが、昭和三十年代に加速した工業用水汲み上げによる地盤沈下で計画高以下になってしまった所が多く、河川堤防の至る所で越流したのでした。

◆床下浸水で「陋生活」三万戸

上の写真は台風の翌日、当時三十二歳の山本安孝さん（八五）＝田中＝が八幡屋交差点から北側を写したものです。この辺は地上げが終わっていたのでこの程度でしたが、まだだった市岡辺

←上の写真と同一位置から撮った現在の風景（上）

（左は港側の住宅街、右は中央体育館と、上の写真と同日時に撮った八幡屋交差点南側（下）



りでは天井付近まで浸かったと聞いています。うちでは前もって筆筒の引き出しを抜いて階へ上げるなどの備えをしていましたが、それでも床上まで潮水に浸かり、その後は一階でご飯を炊いて階で食べるなどの生活が正月まで続きました」と当時の様子を話してくれました。

◆以降は大きな水害なし

その後、大阪では工業用水道の建設が進み、工業用井戸の使用が全面禁止されたことで地盤沈下は沈静化。港区では全面盛土による土地区画整理事業の一層の進捗などによって、この台風以降、大きな水害は出ていません。

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがフィクションとしてつづる「当地ドラマ」。シリーズ第八弾は、田中在住の名もなき九十年代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしと」。

幸運橋の空 (一)

町あらずい 港区内の「デイサービス」に通う

大東久美子は、一緒に暮らす次男の勧めで回想録を残すことになり、代筆屋の私に波乱の過去を語った。久美子は太正九(一九〇〇)年、六人兄弟姉妹の第一子・長女として浪速区に生まれた。父・弥太郎は腕の良いベルト職人だったが女遊びや賭け事で母を困らせていた。久美子の生後間もなく、家族は西淀川区花川町へ引越した。理由は父が解雇されたことだった。

父は労働争議の先頭

父は勤め先である新田帯革の工場労働者た

ちの先頭に立って賃上げなどの要求を掲げ、労働争議を起こしたのだった。田万清臣という市会議員と一緒にやって港区築港の「大潮湯」で集会を開き、自ら演説したり経営者と交渉したりして、賃上げや労働条件の改善を実現することができたという。しかし後日、経営者は「あんたが首謀者だから、可哀想やけど辞めてもらわなアカン」と解雇を通告した。それでも社長は退職金を弥太郎に手渡しながら、「頼むから、あんたの発明した技術だけは、どうにも言わんといってくれよ」とくり返したものだ。

退職金が底つき夜逃げ

父と母はその退職金を元手に海産物売りの商売を始めた。ありがたいに、父のいた工場の大勢の労働者たちが「父に」世話になったからと、その店まで買いに来てくれたという。

ところが生来の遊び好きの父・弥太郎は、朝のうちにそれらが売れてしまつて、その売上金を懐に、昼からさつと出かけるようになった。瞬く間に退職金は底をつき、さらにはたくさんの借金を抱えるようになった。それで家族は再び、しかし今度は夜逃げ同然に、その花

「父・弥太郎が新田帯革の工場労働者の先頭に立って労働条件改善の要求を掲げ、集会を開いた大阪市港区築港の「大潮湯」



川町の家を出ることになった。

落ち着いた先は同じ西淀川区花川町の町内で「兄さん」と呼ばれていた知り合いの男の家族の家だった。久美子たちはその一室で間借り生活を始めた。物心ついた三歳ぐらいの久美子がうつすら覚えているのは、そこは平屋で八畳と六畳だったこと、「兄さん」は背椎カリエスか何かで背中がひどく曲がっていたこと、そしてその夫婦には「いっちゃん」という十八ぐらいの可愛い娘さんがいたことだった。

「いい人」を通った父

その間借り生活の中で、何事にも器用な父・

弥太郎は、小さな船を誰かと一緒に造り、晩になると、よく野里町と花川町の間にあり、皆が「野里の池」と呼んでいた大きな池へ仕掛けに行った。糠に魚の骨を混ぜて丸めた餌を撒いておき、朝になって行ってみると、鰻などがいっぱい掛かっていた。弥太郎はそれらを近所の人たちに分けては喜ばれていたようだ。そんな風で、弥太郎は家族にはともかく、他人にはよくしたので、専ら「いい人」で通っていた。

●父が再就職

弥太郎は幼い久美子をよく可愛がってくれた。近所の駄菓子屋に「うちの娘が来たら何でもやつてくれ。金はフシが（月の）末に払うから」などと頼んでいたそうだ。野里住吉神社の夜店には欠かさず連れて行ってくれた。また、にぎやかな野田阪神の商店街で高価なオーバー、マント、革靴など（なぜか、どれも五円だった）を買ってもらったことも久美子は覚えていた。

弥太郎はその間借りの先で運賃へ、「小鹿帯革」といって、前にいた「新田帯革」と同じような事業内容の、従業員田十人くらの会社へ就職

することができた。弥太郎の腕の確かなのを伝え聞いた経営者が、会社に必要な人物として引いてくれたのかもしれない。弥太郎はこの会社で技術者として職長に就いたばかりでなく、外交員（営業マン）としても働いたようだ。

●社宅で暮らす

その小鹿源太郎という社長は絵に描いたようなカイヤル髭を生やしていて、久美子を大層かわいがってくれた。よく社長宅へ呼んでもらい、邸ににあった大きな太鼓を叩かせてもらったりして遊んだのを久美子は覚えていた。

この小鹿帯皮の工場は三階建てで、一階は「下地つくり（革をなめす所）」、二階は「乾燥と切断」、三階では「型に入れての仕上げ」が行なわれていた。久美子たちはその工場の社宅に入った。社宅は平屋で、真ん中に長い木の廊下（ろうか）が通り、その西側に六部屋ずつ計十二部屋が並んでいた。各部屋は八畳間と六畳間から成り、一畳ほどの炊事場が付いていた。便所は共同だった。裏の戸を開けると畑があり、社員がトウモロコシなどの作物を育てていた。

●地震の恐怖

その社宅にいたのは確か大正十五（一九二六）年ごろで、久美子は五歳くらいになっていたが、その年の夏に妹の富子が生まれた。その一カ月ほど後、父の同僚の奥さんが、久美子より一つ上の男の子を連れ、「産後のお見舞い」に来てくれたのだが、その時の出来事が、久美子は今も忘れられないでいる。

その日のまだ明るい時刻だった。母とその奥さんがしゃべっていると、突然部屋が大きく揺れた。地震だった。母はすぐに妹を抱きかかえて部屋を飛び出し、裏の畑へ出た。もちろんその奥さんも男の子の手を引いて一緒に逃げた。二人とも裸足だった。「久美子、早よおいで」といつ母の声が聞こえた。久美子は必死で二人のあとを追いつ、裏の出口にあった下駄を履き、母の下駄とその奥さんの下駄を手に（幼な心に「もったいない」とでも思ったのだろう）畑へ駆け出た。幸いみな無事だったが、今でも久美子はその時の、一瞬取り残された不安と恐怖を昨日のこのように覚えていた。

ところで、遊び好きの父・弥太郎にはまた別の面もあった。

（つづ）

平和のため

戦争体験

語り継ごう

すぎはら あなこ

杉原 麻子さん(九四) 〓 南市岡在住 ④



前まで 一九〇年香川県に生まれた私は

中国での戦火拡大の中、看護学校に学び、赤十字病院では傷病兵の看護に追われた。二十歳で結婚し、満州の首都新京へ。不自由な生活を送ったが、一九四五年四月に夫は戦地へ。八

月、ソ連参戦で新京は大混乱、お腹の子を抱えて北朝鮮へ疎開した。が、敗戦で権力は現地人に。最悪事態も覚悟する中、満州帰還が決まり、無蓋貨車で再び新京へ。しかし我が家は略奪されAさん宅に寄寓。ソ連軍支配下の市内には開拓地からの難民が続々と送り込まれてきた。

地獄絵の難民収容所

夫はシベリア送りから決死の脱出

収容所に向かう難民の様子は悲惨でした。女は髪を切って丸坊主になり、顔には煤を塗り、男女の区別がつかないようにしていました。衣類はぼろぼろになり、中にはカマスや麻袋を切り裂き、手足を通して案山子のような格好の人もいました。赤ん坊を背負い、小さな子の手を引き、ふらふらと歩く姿は哀れで身につまなれませんでした。途中で産気づいて列から離れ、大猫のように道端で子供を産み落とす女性も。まるで地獄絵を見るようでした。

これはソ連の参戦により「関東軍危うし」の情報をキャッチした軍幹部が、自分たちの家族

は家財と共に逸早く帰国させながら、一般居留民を見捨てた結果でした。

◆墓標で埋まる校庭 残留孤児も

満州の奥地から逃れて来る人たちがあまりに多いため、日本人小学校も全て難民収容所に充てられました。それでも救助活動には十分手が回らず、疲労と栄養失調、おまけに発疹チブスまで流行して、弱い者からバタバタと倒れていきました。校庭の木の下は墓標で埋まり、足の踏み場もないほどでした。

肉親と離れ離れになったり死別したりした日本の子供が、公園や街角にぼつぼつ出始めたのは、この頃からでした。また食糧の見込みがつかないため「自分はこの先どうなってもいいが、せめて子供だけは生き延びてほしい」と泣く泣く満人に預けた人たちもいました。これが後のいわゆる「残留日本人孤児」問題につながったのです。

◆質が悪かったソ連兵

ところで、当時のソ連兵は、薄汚れた灰色の軍服に鍋や飯盒を腰にぶら下げ、背の高いのやら低いのやら、また老人のようなのがいるかと

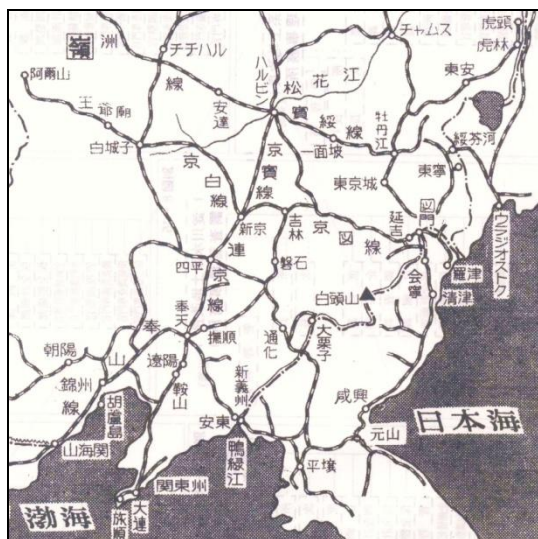
思えば、子供のよつなもいて、まさに「うちゃまぜ」。あまりの質の悪さ、程度の低さに「これが恐れていたソ連の兵隊なのか」と呆れたものでした。

ある日、土足で台所へ上がり込み、何かを見つけて食べ始めたのはよいが、どんどん口へ放り込み、いくつ食べたか分からなくなり、三十個べらいつのころでついつつ吐いてしましました。またある日、一緒に疎開していた鈴木さんに会ったため一人で外出した時、ソ連兵に拳銃を突き付けられて脅えていると、自分の腕をまくり、略奪した時計を上から下までぎっしりとはめているのを見せつけ、「チャースー」「チャースイ」と叫ぶのです。「ああ、時計がほしいのか」と私のを外して渡すと、逃がしてくれました。この頃はソ連も物資が乏しく、一般国民は貧しい暮らしをしていたようです。また、あとで聞いた話ですが、日本兵の捕虜を数えるのに、下士官さえも、十人ずつ整列させないとできないかったとか。

◆ 夫が語った決死の脱出劇

一方、夫は戦争が終わりに近づいたころ、ソ

←敗戦直後から大混乱が見られた満州各地



連と満州の国境に近い五叉溝にいました。部隊の移動と共に吉林―牡丹江―新京―奉天と南下して撫順に来た時、終戦を迎えたそうです。ただちにソ連軍に武装解除させられ、今度は捕虜として酷寒のシベリアへ送られることになったのです。これから話すのは、のちに夫から聞いた話です。

——汽車は北へ北へと暴進していました。臨月に近い私がいそであるところ新京に近づいた時、夫は脱出を試みました。しかし警備が厳しくて

動くに動けず、そのまま駅を通過。その後も虎視眈々と機を窺っていました。

やがて新京とハルピンの中間地点・唐来沼の沼地を過ぎたころ、線路が大きくカーブし、速度が落ちました。「今だー」。運を天に任せ、パッと身を翻して貨車から飛び降りました。間髪入れずパンパンパンと機関銃の音。ソ連軍の監視兵に見つかっただけです。が、列車は走り続け、銃声も響いています。じっと地面に伏せたまま、気の遠くなるような時間が過ぎていきました。

やがて銃声も聴こえなくなり、体を起こして辺りを見渡すと、列車の影は既になく、レールの微かな響きだけが耳に伝わってきました。煌々と広野を照らす月明かりと静寂が、まるで何事もなかったかのように我が身を包んでいます。「ああ助かったー」。大した怪我もないようです。心臓の鼓動はまだ早鐘のようでしたが、脱走に成功した感慨が腹の底から湧き上がりました。男一匹命をかけた勝負はじつやり「吉」と出たようです。夫三十一歳。昭和二十年九月半ばのことでした。(つづ)

文化的イベント案内

みなとカルチャー

● 港図書館

①大阪市図書館フエスティブアル「秋のこどもかい」Ⅱ大型絵本の読み聞かせやパネルシアターなど。幼児から小学生向け。十一月三十日(日)十時半〜十一時半に港区民センター「階」松竹」で。申込不要②あかちゃんのおたのしみ会Ⅱ毎月第一金曜日(十一月は五日)の十一時〜十一時半、じゅうたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。毎週のおたのしみ会より赤ちゃん向け。申込不要③おたのしみ会Ⅱ毎週水曜日十五時半〜十八時じゅうたんコーナーで。幼児を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申込不要④図書展示「よつこ書物の森へ」展Ⅱ市立図書館司書一〇一人が「書物の森」というテーマに沿って選んだお勧め本を展示。十二月二十八日(日)まで開催中▽☎八五七六・二三四六。

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「第九」特別

演奏会 年末恒例の「第九」コンサート。今年

は「虚飾を排した真摯な音楽」矢崎彦太郎の「第九」と題し、欧州を中心に世界で活躍する矢崎

彦太郎さんの指揮で。矢崎さんは一九四七年東

京都生まれ、東京藝大卒。東京交響楽団指揮者、

ノルウェー国立放送管弦楽団首席客演指揮者な

どを歴任、現在は東京シティ・フィルハーモニー

ク管弦楽団首席客演指揮者。二〇〇二年エリク

ソンモービル音楽賞(奨励賞)受賞。出演はソプ

ラノ・砂川涼子さん、アルト・福原寿美枝さん、

テノール・塚直紀さん、バリトン・福島明也さ

ん、合唱：田辺第九合唱団。演奏曲目は①ベート

ーヴェン：プロメテウスの創造物」序曲 作品

43②ベートーヴェン：交響曲第9番「短調



→ 関西フィル「第九」特別演奏会で指揮を担当する矢崎彦太郎さん (©有田周平)

←「第九」特別演奏会でソプラノを担当する砂

川涼子さん(上)と、アルトの福原寿美枝さん(下)



作品125「合唱付」。十月十四日(日)十時半からザ・シンフォニーホール(JR環状線「福島駅」から北へ歩約七分)で。S席八千円、A席五千円、B席四千円、学生席二千五百歳以下)千円、全席指定・消費税込。☎八五七七・三三一。



→「第九」特別演奏会でテノールを担当する二塚直紀さん(上)と、バリトンの福島明也さん(下)

● 弁天町ORC2000生涯学習センター「こつ

ばんのつた」「こつものつた」「次世代へ歌い継

ぎたい日本の歌を、本格的なオペラ歌手の歌声と共に、背景やエピソードを学びながら楽しもうと旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、六回に亘って人気を博した「レクチュアコンサート」シリーズの「アンコール」に込めての総集編。四季それぞれの自然やその情景、そこに

織りなされる人生のひとこまを描いた歌を特

集。出演はソプラノ：小堀史絵さん、バリトン：

橘茂さん、ピアノ：金岡優子さん。企画・構

成・司会は大田道宏さん（関西フィルチェロ奏

者）。曲目は「赤とんぼ」「虫のこえ」「里の秋」「冬

景色」「冬の夜」「雪」「早春賦」「春が来た」「春の小

川」「やいばりやうら」によるバラフレーズ「花

「朧月夜」「夏は来ぬ」「われは海の子」「夏の思い

出」「村祭」「十五夜お月さん」「紅葉」他。十一月十

七日（月）十九時から同センター講堂で。料金は

一般千八百円（前売千四百円）、小・中学生九百円、

定員百二十名（先着順）。☎六五七七・一四二〇。

● 弁天町ORC2000生涯学習センター「きめ

こみ手芸」一日体験 クリスマスに向けて「ホ

インセチアとスノーマン」の可愛い作品づくりに楽しむ。十一月二十八日（水）十四～十六時。講師は本根富美子さん（きめこみ手芸講師）と野川由美子さん（大正区中泉尾小学校生涯学習推進員）。定員 千名（先着順）。受講料千九百円（教材費含む）。持ち物はハサミ、目打ち（あれば）。☎六五七七・一四二〇。

● 弁天町ORC2000生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」旧・弁天町市民学習センター時

代から長年親しまれた人気イベントの再開第七

回、通算第三十九回。十一月二十八日（水）十九

時～二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さ

ん（徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下）と旭



→ 弁天町ORC2000生涯学習センター「オー

ク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家笑

福亭學光さん①と講師・旭堂南麟さん②

← 第三十九回オーク弁天寄席に出演する林家う



堂南麟さん（大阪出身の講師、旭堂南校門

下）をレギュラーに、今回は林家うさぎさん（大

阪府出身、林家染丸門下）、笑福亭喬介さん

（堺市出身、笑福亭三喬門下）も。先着百二

十名。当日五百円、前売四百円。オーク弁天寄

席の会と同センターが主催、ORC2000店舗

会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一

四二〇。

● 弁天町ORC2000生涯学習センター「二日

体験教室 きつかけレッスン」やりたいことに

気軽にチャレンジするための支援講座。十一月

一日（月）～二十日（土）に「ハングル」「ロシア

ル」「女声合唱」「からだほし」「ペン習字」「ジャ

ズダンス」「フラダンス」「バレエ」「ストレッチ」

「ダイエット」「中国語会話」「三線」「日本画」「太極拳」「バルーンアート」「ブーケ」「ヒップホップ」「はんこ」「ヨガ」「紙芝居」「朗読」「絵手紙」「民謡」「押し花＆デコパージュ」「尺八」「ハンドチャイム」「人物画」「シニアコース」「油絵」「オカリナ」「スクエアドダンス」「手話」「ブリザードフラワ―」など二十九講座。参加費はゼロ円から。☎六五七七・一四二〇。

● 井天町ORCC2000生涯学習センター「切り絵」二日体験

来年の干支で家内安全・家庭円満のシンボル「未」を切り絵で。十一月四日(木)十四～十八時。講師は上村一夫さん(大正区平尾小学校生涯学習推進員)。定員二十名(先着順)。受講料十円(教材費含む)。持ち物はカッターナイフ。☎六五七七・一四二〇。

● 井天町ORCC2000生涯学習センター「クリスマス・コンサート2014」

旧・井天町市民学習センター時代から毎年好評だった関西フィルハーモニー管弦楽団の弦楽五重奏メンバー「哲学の道」フロムナード・コンサートの仲間たちによるクリスマス・コンサート。第一部は「モーツァルト室内楽(多曲特選)」と題して『ティヴ

エルティメント』長調K. 136』と『弦楽四重奏曲第19番ハ長調K. 465「不協和音」』。

第一部は「魅惑のミュージカル・ナンバーたち」と題して『デビッド・ハウエル編曲の『虹のかなた』』『雨に唄えば』『踊り明かそう』『ウェスト・サイド・ストーリー・メドレー』『メモリー』『美女と野獣』『アナと雪の女王』『ホワイ・クリスマス』など新旧の傑作ミュージカルから珠玉のメロディを。十二月十七日(水)十五時半と十九時の二回、オークホール(オーク200・一番街六階)で。入場料千七百円(前売千五百円)、小中学生九百円。定員各回二百五十名。小学生以上が対象。☎六五七七・一四二〇。

● シネ・ヌーヴォ『黒澤明映画祭』

たぐいまれなエンターテインメント性と鋭い社会性でまたダイナミックな映像表現とヒューマニズムに徹した作風で、数多くの名作を生み出し、世界の映画史に峻厳と響え立つ巨人・黒澤明。その十七回忌にあたり、世界の映画人に多大な影響を与えた傑作『七人の侍』誕生六十周年を記念し、生涯の全三十作品を十二月十九日(金)まで上映中。十一月十五日以降の上映作品

「人間味とユーモア溢れる侍像を描いてその後の時代劇を変えた『椿三十郎』①と、大ヒットした社会派サスペンス『天国と地獄』②



は『野良犬』(一九四九年、十五日まで)『醜聞』(五〇年、十七日まで)『生きる』(五一年)『七人の侍』(五四年)『生きものの記録』(五五年)『蜘蛛巣城』(五七年)『どん底』(五七年)『隠し砦の三悪人』(五八年)『悪い奴ほどよく眠る』(六〇年)『用心棒』(六一年)『椿三十郎』(六一年)『天国と地獄』(六三年)『赤ひげ』(六五年)『どですかでん』(七〇年)『デリス・ウザーフ』(七五年、未定)『影武者』(八〇年)『乱』(八五年)『八月の狂詩曲』(九一年)『まあだだよ』(九二年)。当日一般五百円。

←師匠と弟子の交流や貧民の人生模様を骨太に描いた感動作『赤ひげ』①と、独創的な様式美と壮麗な合戦絵巻で魅せた『影武者』②

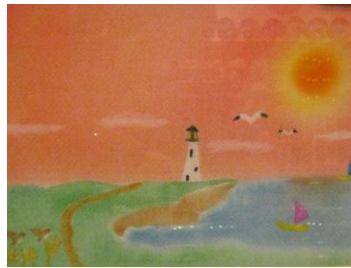


上映スケジュールなど詳細は同館(西区九条一
・二〇・二四、地下鉄中央線九条駅⑥)出口歩三
分、阪神なんば線九条駅②)出口歩三分、**☎六五
八二・二四二六**へ。

● かふえ&ぎやらりー風庵ふうあんのぞみ工作所のみ
なさんの作品展」のぞみ工作所（吹田市高浜町

六・六、**六八三一九・三八六**）は「障がいを持ちながらも少しずつ自分にできることを増やそう」と生活リズムの維持や家事などあらゆる生活技術の向上のために様々な生活訓練に取り組む場所。一九六八年に設立。回展ではそのメ

「風庵で開催中の『のぞみ工作所のみなさんの作品展』から（上は春の灯台、下は秋の灯台）



ンバーが描きためた大小の絵画数十点を展示・販売。ポストカードは一枚で二五〇円。淡い色調のメルヘン的・童画的なタッチがほのぼのと温かい。十二月二十九日(土)まで開催中。風庵は南市岡二二二一〇(繁栄商店街内)、☎四九六五・五九八二時〜十八時開館(日曜定休)。

● **ねじやらしのシャンテ☆カフェ** 懐かしい歌に老いも若きも声を合わせるイベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四二二〇)で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約一時間。歌集員も。参加費十円(税込)。第七回は十一月二十一日(第八回は変則で十二月十三日)。問い合わせは「ねじやらし音

住まいの防犯レベル高めよう

- ① ワンドア・ツーロックは常識
- ② ピッキングに強いカギに交換
- ③ 窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎ 0120-70-5569

(アニ) 港カギ防犯センター



安全・安心を
ご提供します

港区港晴 1-4-8
(港晴小学校並び)



至港橋、八幡町、商店街、港晴小、テルメ館、みなと通り、パシコ、大船場、芝浦

港カギ防犯センター

☆大阪府銃前技術者防犯協力会会員
☆港防犯協会会員
☆防犯設備士第00-6738号

五五六・六八八、<http://necojyarasii.jimdoo.com/>またはゆずの会(☎六五七二・六八四)まで。

楽事務所「并天四、一一、一一、三〇二、六



ひとくちPR

(二行＝税込二〇〇円)

- **そろばん学習で子どもが変わる！** 右脳活性
見直される効用。そろばん教育は情緒を安定さ
せ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」
も強めよう。森友総合教室 **検索** (夕田一
三三七三津神社西側 **☎**六五七二一六八七七)。
- **新しい学びの世界へ！** チーム学習によつ
て全員ができる。をめぐる画期的な学習スタ
イル。小一〜高二。月謝は週一回で実費六千円。
NPOが運営。問合せはメールで「学び合いス
クール 繁栄商店街」(info. ubiqui-
tous. adv@gmail. com)へ。
- **放課後・春・夏・秋は児童保育へ** 入所見募
集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを
指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇二三
四(西原) **☎**六五七二・六八四三あおぞら学童。
- **おしゃわ着いっぱい** 神戸メーカー直送お
出かけから普段着肌着まで。サイズ豊富。ブ
ティック・ミント(八幡屋一四・八、入舟公
園前大阪信金横、十〜十八時営業、日月定休)。
- **介護のいろはを任せ** ①介護や老いの相談

に乗ります②介護の手続きを代行します③「ニイ
サービス」は送迎付きで入浴・昼食・手芸・ゲーム
・テレビ鑑賞・カラオケ・囲碁・将棋・麻雀・体操・お
やつなどを楽しまします④訪問介護は買物・掃除・
洗濯・通院などを手伝います。NPOみなと合同
ケアセンター(南市岡二一六・二六、**☎**六五八二
一四八八〇、FAX六五八三二二二二)。

- **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛
も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。
シングル掛(敷)ふとん一万円〜。理想のまくら
づくり、フライダルふとん選びもお任せ。お手
入れアドバイス・無料診断実施中。ふとん館ひ
らのや(南市岡三二二・一八繁栄商店街東入口
フリーダイヤル〇二二〇・四二四九・五五)。
● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小
中・高生も楽しく練習。親切指導。家族的雰囲気。
月会費八千円(無期限十枚つづりチケット八十
円)。入会金二万円を月会費半額。練習日は月・水・
金の十九時半〜二十一時半。港ホクシングジム
≫三先一・二三・九 <http://ameblo.jp/minatogeom/>

ひとくち伝言板

- **僕の里親になつて！** 生後二カ月・オス・茶
トラ。捨てられ臆に噛まれ瀕死の状態から
回復中。 **☎**〇九〇・五八九八・一九四五セツ。



読者プレゼント

※いずれもハガキに当月号の感想とプレゼント
名を書いて二十日必着で港新聞へ。

- **関西フィル「第九」特別演奏会** (みなとカル
チャ) 招待券をへア一組に。
- **井天町ORC200生涯学習センター「オー
ク弁天寄席」** (同) 招待券をへア一組に。
- **井天町ORC200生涯学習センター「クリ
スマスコンサート」** (同) 招待券をへア一組に。
- **「つらねとんぼ」一座『新橋町の夕霧』** (演劇
ガイド) 招待券をへア一組に。